

**令和8年度
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
集計及び課題分析結果**

**令和8年 7月
新冠町保健福祉課**

目 次

1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の集計結果について	1
問1 あなたのご家族や生活状況について	4
問2 からだを動かすことについて	6
問3 食べることについて	12
問4 毎日の生活について	17
問5 就労について	23
問6 地域での活動について	24
問7 まわりの人との助け合いについて	30
問8 健康について	34
問9 認知症にかかる相談窓口の把握について	41
問10 医療のことについて	42
問11 外出する手段について	43
問12 これからのことについて	46
自由記述	54
2. 調査結果の分析に基づく高齢者が抱える課題とその要因について	60
1 外出機会の減少と閉じこもりの進行	
2 心の健康（うつ傾向）と社会的孤立	
3 認知機能への不安と相談窓口の認知不足	
4 日常生活の維持（買い物・通院・除雪など）	
5 経済的不安と支援とのギャップ	

1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の集計結果について

- (1) 調査目的 第10期高齢者保健福祉計画を策定するにあたり、要介護状態になる前の高齢者の日常生活リスクや社会参加状況を把握し、地域の抱える課題を特定するための基礎資料とすることを目的に実施。
- (2) 調査対象 令和8年度内で65歳以上となる者
(介護保険において「要介護」認定を受けている者は除く)
- (3) 調査期間 令和8年4月1日(水)～4月24日(金)
- (4) 調査内容 全66問(選択回答形式65問、自由記述形式1問)
- (5) 調査方法
- ・調査票の配布 : 郵送
 - ・回収 : ①返信用封筒による郵送
②町内8か所に設置した回収箱による回収
③個別訪問による聞き取り(記入困難な者)

【回収箱設置場所】

- ・新冠町役場
- ・新冠町レ・コード館
- ・新冠町立国保診療所
- ・節婦老人憩いの家
- ・新冠温泉ホテルヒルズ
- ・新冠郵便局
- ・節婦郵便局
- ・新和郵便局

(6) 回収結果

		【R5年度】	【R2年度】
対象者数	: 1,466名	1,444名	1,568名
回答者数	: 929名	924名	1,011名
回答率	: 63.4%	64.0%	64.5%

(7) 回答結果の見方について

- ・回答結果の割合(%)は、回答総数に対するそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものであり、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答の設問の場合、選択肢毎に回答総数に対するそれぞれの割合で示していることから、合計値が100.0%を超える場合があります。
- ・図表やグラフ中の「無回答」は、回答が示されていないもの(空欄)を指します。
- ・図表や文中の「N (number of case)」は、回答総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表します。
- ・図表やグラフ中の設問の選択肢は簡略化してしている場合があります。

【回答者内訳】

(1) 日常生活圏域別

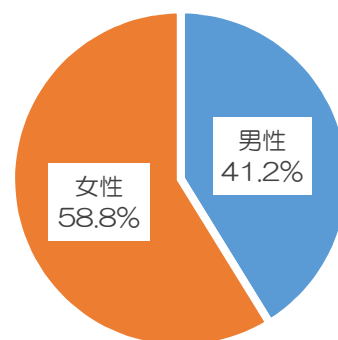
	対象者数	回答者	回答率	年齢別回答者内訳							
				65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	100以上
本 町	167	117	70.1%	21	21	31	20	17	5	2	0
中央町	87	63	72.4%	14	12	14	14	8	1	0	0
北星町	302	209	69.2%	35	54	51	33	24	10	2	0
東 町	188	137	72.9%	23	31	38	22	12	9	2	0
市街地合計	744	526	70.7%	93	118	134	89	61	25	6	0
泊 津	98	59	60.2%	9	16	22	6	4	0	2	0
高 江	54	24	44.4%	2	7	7	3	2	2	0	1
朝 日	44	29	65.9%	4	7	9	4	0	1	2	2
大 富	31	19	61.3%	1	0	5	6	4	3	0	0
万 世	21	8	38.1%	1	1	3	3	0	0	0	0
明 和	20	9	45.0%	0	3	3	1	1	1	0	0
緑 丘	22	16	72.7%	3	5	2	2	3	0	1	0
古 岸	18	12	66.7%	2	3	5	2	0	0	0	0
若 園	17	12	70.6%	1	5	2	2	1	0	1	0
新 栄	20	6	30.0%	0	2	1	1	1	1	0	0
泉	25	7	28.0%	2	1	2	0	0	2	0	0
新冠沢合計	370	201	54.3%	25	50	61	30	16	10	6	3
節婦町	169	98	58.0%	24	22	12	19	14	6	1	0
大狩部	57	28	49.1%	4	7	4	7	6	0	0	0
共 栄	27	15	55.6%	6	5	2	1	1	0	0	0
東 川	18	13	72.2%	1	5	4	3	0	0	0	0
美 宇	32	16	50.0%	1	5	5	0	3	2	0	0
新 和	16	6	37.5%	3	1	1	0	1	0	0	0
太 陽	29	21	72.4%	1	10	4	3	1	1	1	0
里 平	4	4	100.0%	0	2	2	0	0	0	0	0
西新冠沢合計	352	201	57.1%	40	57	34	33	26	9	2	0
不 明	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	1,466	929	63.4%	158	225	229	152	103	44	14	3
構成比	—	—	—	17.0%	24.2%	24.7%	16.4%	11.1%	4.7%	1.5%	0.3%

	今 回	前 回 【R5】
全 体	100.0% (928 名)	100.0% (922 名)
市街地地区	56.7% (526 名)	56.8% (524 名)
新冠沢地区	21.7% (201 名)	21.0% (194 名)
西新冠地区	21.7% (201 名)	22.1% (204 名)

※今回分…
年齢・居住地不明 1 名除く

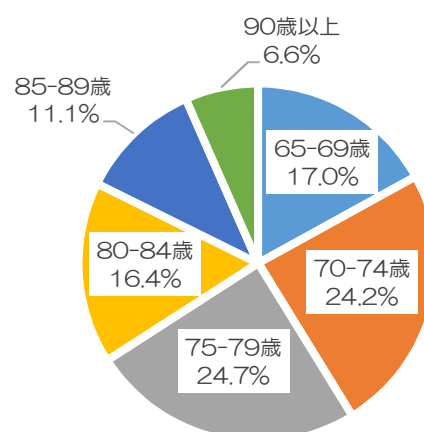
(2) 男女比

	今 回	前 回 【R5】
全 体	100.0% (928 名)	100.0% (922 名)
男 性	41.2% (382 名)	39.8% (367 名)
女 性	58.8% (546 名)	60.2% (555 名)



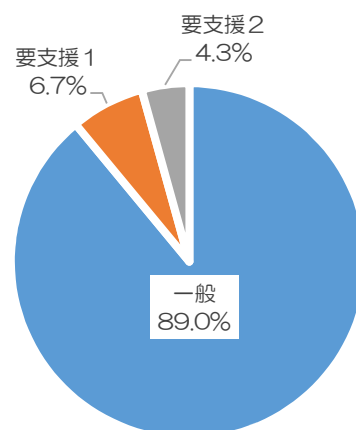
(3) 年齢階級別

	今 回	前 回 【R5】
全 体	100.0% (928 名)	100.0% (922 名)
65－69 歳	17.0% (158 名)	19.0% (175 名)
70－74 歳	24.2% (225 名)	24.5% (226 名)
75－79 歳	24.7% (229 名)	22.5% (207 名)
80－84 歳	16.4% (152 名)	17.4% (160 名)
85－89 歳	11.1% (103 名)	10.3% (95 名)
90 歳以上	6.6% (61 名)	6.4% (59 名)
平均年齢	77.0 歳	76.8 歳



(4) 要介護状態区分別

	今 回	前 回 【R5】
一 般	89.0% (826 名)	88.0% (811 名)
要支援 1	6.7% (62 名)	7.3% (67 名)
要支援 2	4.3% (40 名)	4.8% (44 名)



※性別・年齢・要介護状態 不明者 1 名
(令和 5 年度は 2 名)

調査対象者 1,466 名のうち 929 名が回答しており、回答者数及び回答率ともに、前回調査(令和 5 年度)とほぼ同数となっている。日常生活圏域でも、市街地地区 526 名(回答者の 56.7%)、新冠沢地区 201 名(回答者の 21.7%)、西新冠地区 201 名(回答者の 21.7%)と、こちらも前回とほぼ同数となっている。年齢階級別では、前期高齢者(65 歳から 74 歳)は前回の 401 名から 383 名へと微減、反対に後期高齢者(75 歳以上)は 521 名から 545 名へ微増し、回答者の平均年齢も 0.2 歳高くなっている。要介護状態区分では、「要支援」の認定を受けている方の回答が減り、「一般」の方の回答が若干増えている。

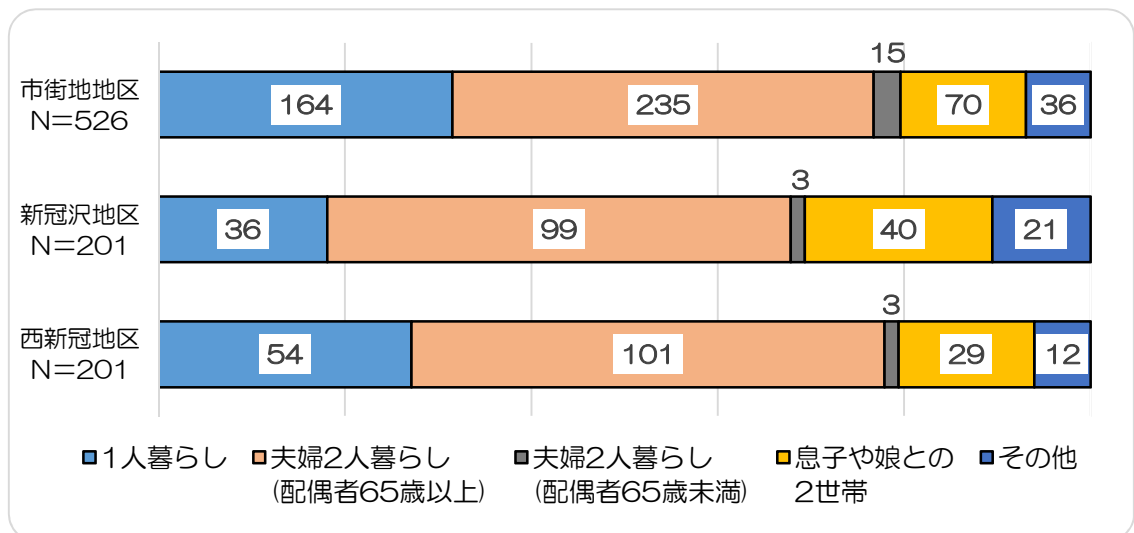
問1

あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成（一緒に住んでいる方） 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	1 人暮らし	27.3% (254 名)	29.9% (276 名)
2	夫婦 2 人暮らし(夫または妻 65 歳以上)	46.9% (436 名)	41.8% (386 名)
3	夫婦 2 人暮らし(夫または妻 65 歳未満)	2.3% (21 名)	1.4% (13 名)
4	息子や娘との 2 世帯	15.0% (139 名)	17.2% (159 名)
5	その他	7.4% (69 名)	8.9% (82 名)
	無回答	1.1% (10 名)	0.9% (8 名)

○ 地区別の家族構成割合



※「2. 夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」のうち、居住地区不明者 1 名

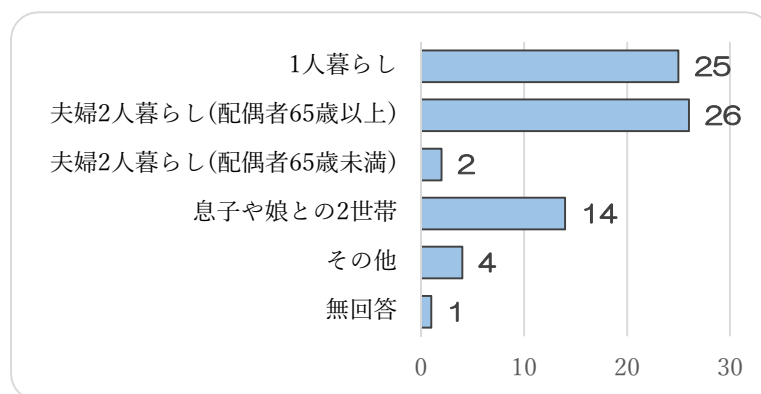
回答者の家族構成は、「夫婦 2 人暮らし(夫または妻 65 歳以上)」(436 名)が最も多く、前回と比べ大きく増加しているが、一方で「1 人暮らし」(254 名)や「息子や娘との 2 世帯」(139 名)については減少している。

地区別では、市街地地区は他の地区と比べて「1 人暮らし」の方の割合が高く、また、新冠沢地区では 1 人暮らしよりも「息子や娘との 2 世帯」の方が多いという特色が見られる。

(2) 普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	介護・介助は必要ない	84.4% (784 名)	83.2% (769 名)
2	何らかの介護・介助は必要だが受けていない	7.8% (72 名)	7.5% (69 名)
3	何らかの介護を受けている	5.5% (51 名)	7.7% (71 名)
	無回答	2.4% (22 名)	1.6% (15 名)

○「2. 何らかの介護・介助は必要だが受けていない」と回答した方の家族構成別回答者数 【N=72】



主観的な介護の必要度について、8割以上(84.4%)は「必要ない」と回答している。

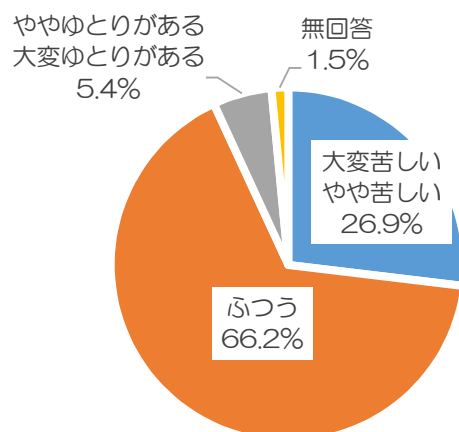
一方で、「何らかの介護・介助は必要だが受けていない」と回答した方は72名おり、うち25名は「1人暮らし」、26名は「夫婦2人暮らし(夫または妻65歳以上)」である。

(3) 現在の暮らしは経済的(金銭的)にどう感じますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	大変苦しい	7.3% (68 名)	8.7% (80 名)
2	やや苦しい	19.6% (182 名)	18.6% (172 名)
3	ふつう	66.2% (615 名)	66.0% (610 名)
4	ややゆとりがある	4.8% (45 名)	4.4% (41 名)
5	大変ゆとりがある	0.5% (5 名)	1.0% (9 名)
	無回答	1.5% (14 名)	1.3% (12 名)

経済的に苦しい
今回 26.9% (250 名)
前回 27.3% (252 名)

経済的にゆとりがある
今回 5.4% (50 名)
前回 5.4% (50 名)



主観的経済状況感について、6割以上が「ふつう」と回答している。

前回の調査結果から大きくは変わっていないものの、約4分の1の方は経済的に苦しいと感じている。

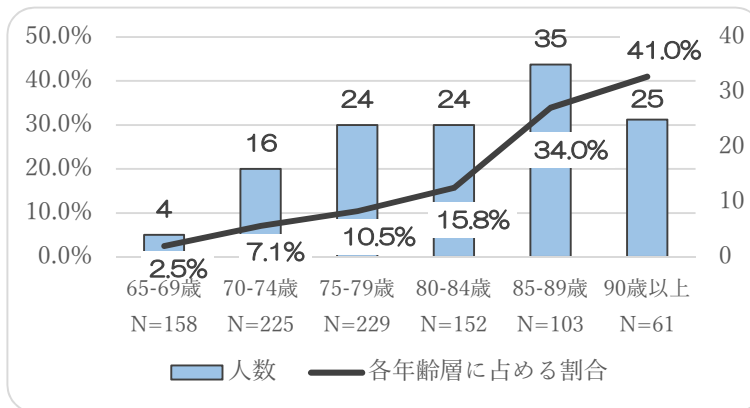
問2

からだを動かすことについて

(1) 手すりなどを使わずに階段を上り下りできますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	できるし、手すりなどは使っていない	46.8% (435 名)	45.7% (422 名)
2	できるけど、手すりなどを使っている	38.2% (355 名)	38.1% (352 名)
3	手すりを使わなければ上り下りできない	13.8% (128 名)	15.4% (142 名)
	無回答	1.2% (11 名)	0.9% (8 名)

○ 「3. 手すりを使わなければ上り下りできない」と回答した方の年齢階級別割合 【N=128】

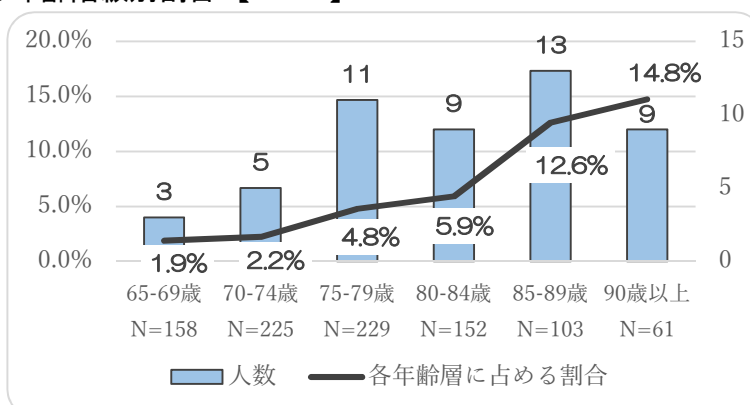


階段を上り下りする際の手すりについて、5割弱(46.8%)は「できるし、使っていない」と回答。一方、「使わなければ上り下りできない」とする方は、前回調査から数は減っているものの、85歳以上の3割以上で、90歳以上の4割以上で手すり等を必要とする。

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がれますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	立ち上がれるし、何もつかまってい	70.9% (659 名)	68.9% (637 名)
2	立ち上がれるけど、何かにつかまる	22.9% (213 名)	23.2% (214 名)
3	何かにつかまらなければ立ち上がれない	5.4% (50 名)	6.9% (64 名)
	無回答	0.8% (7 名)	1.0% (9 名)

○ 「3. 何かにつかまらなければ立ち上がれない」と回答した方の年齢階級別割合 【N=50】

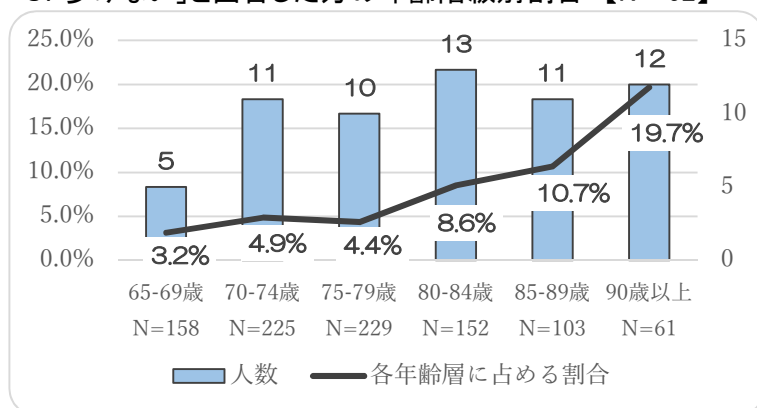


椅子からの立ち上がりの際の支えについて、約7割(70.9%)は「立ち上がれるし、何もつかまってい」と回答。一方で、「何かにつかまらなければ立ち上がれない」とする方は50名おり、年齢が上がるにつれてその割合は高くなる。

(3) 15分くらい続けて歩いていますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	できるし、歩いてる	69.2% (643 名)	67.5% (624 名)
2	できるが、歩いてない	23.4% (217 名)	24.4% (225 名)
3	歩けない	6.7% (62 名)	7.5% (69 名)
	無回答	0.8% (7 名)	0.6% (6 名)

○ 「3. 歩けない」と回答した方の年齢階級別割合 【N=62】



15分程の連続した歩行については、約7割(69.2%)が「できるし、歩いてる」と回答し、前回調査と比べても人数・割合ともに増えている。

一方で、「歩けない」と回答した方は62名おり、特に90歳以上の約2割は難しい状況となっている。

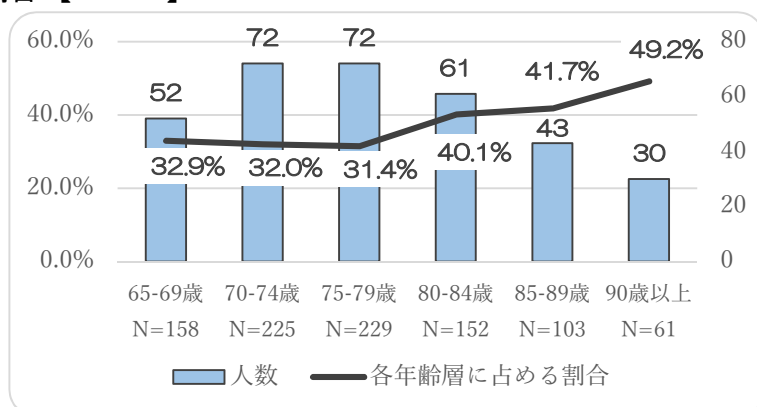
(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	何度もある	11.6% (108 名)	14.9% (138 名)
2	1度ある	23.9% (222 名)	22.2% (205 名)
3	ない	63.8% (593 名)	62.0% (573 名)
	無回答	0.6% (6 名)	0.9% (8 名)

転倒リスクの高い方

今回 35.5% (330 名)
 前回 37.1% (343 名)

○ 「1. 何度もある」「2. 1度ある」と回答した方の年齢階級別割合 【N=330】



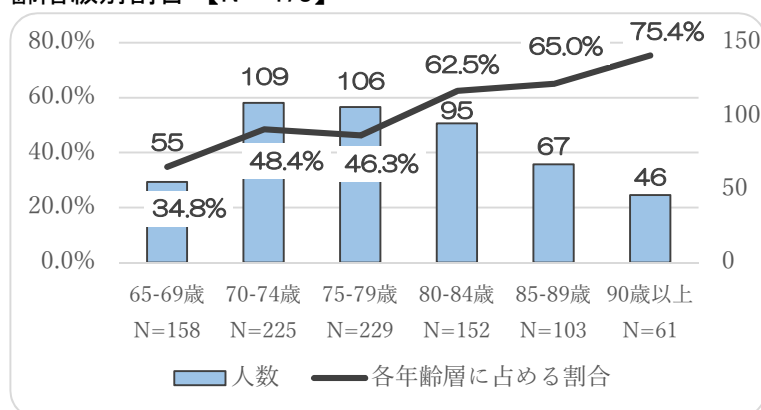
最近1年間の転倒経験について、6割以上(63.8%)が「ない」と回答。

一方で、転倒リスクが高いと判断される方は330名となっており、年齢が上がるにつれてリスクを抱える方の割合は高く、80歳以上の4割以上、90歳以上の約5割が該当している。

(5) 転倒に対する不安は大きいですか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	とても不安である	14.4% (134 名)	17.5% (162 名)
2	やや不安である	37.0% (344 名)	35.6% (329 名)
3	あまり不安でない	26.9% (250 名)	28.2% (261 名)
4	不安でない	21.0% (195 名)	17.7% (164 名)
	無回答	0.6% (6 名)	0.9% (8 名)

○ 「1. とても不安である」「2. やや不安である」と回答した方の
年齢階級別割合 【N=478】



転倒不安に対し、2割以上(21.0%)が「不安でない」と回答。前回調査から3.3%増加している。

一方、「とても不安」「やや不安」と回答した方は478名となっており、70歳以上では約5割、80歳以上では6割以上、90歳以上になると7割以上が不安に感じている。

※ 以下5つの設問のうち、次のとおり選択した方

- (1) 手すりなどを使わずに階段を上り下りできますか ⇒ 「3. 手すりを使わなければ上り下りできない」
- (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がれますか ⇒ 「3. 何かにつかまらなければ立ち上がれない」
- (3) 15分くらい続けて歩いていますか ⇒ 「3. 歩けない」
- (4) 過去1年間に転んだ経験がありますか ⇒ 「1. 何度もある」「2. 1度ある」
- (5) 転倒に対する不安は大きいですか ⇒ 「1. とても不安である」「2. やや不安である」

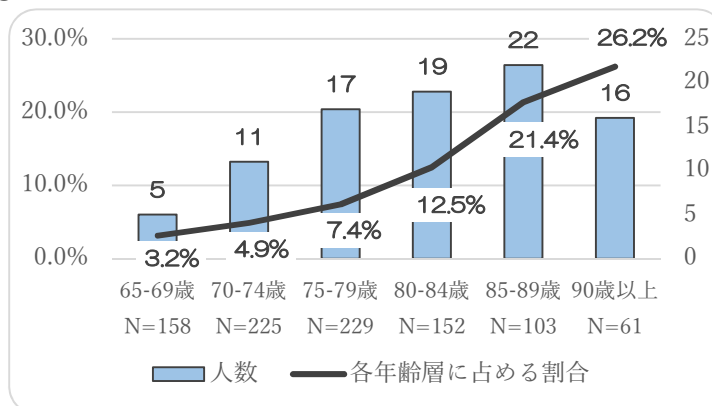
	今 回	前 回【R5】
該当なし	35.6% (331 名)	33.5% (310 名)
1 問該当	31.1% (289 名)	31.2% (288 名)
2 問該当	21.6% (201 名)	19.8% (183 名)
3 問該当	5.1% (47 名)	7.4% (68 名)
4 問該当	3.0% (28 名)	3.7% (34 名)
全て該当	1.6% (15 名)	1.9% (18 名)
無回答項目あり	1.9% (18 名)	2.5% (23 名)

厚生労働省が定める基準において、3問以上該当する場合、『運動器機能の低下』と認定

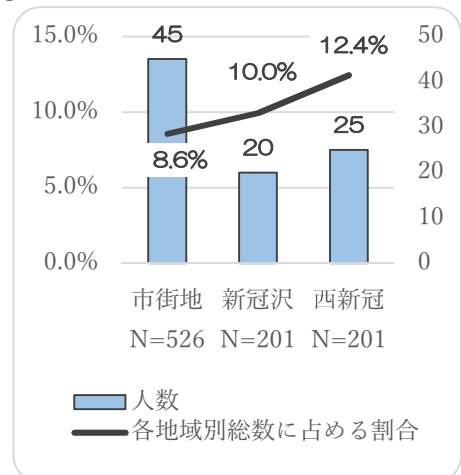
今回 9.7% (90 名)
前回 13.0% (120 名)

○ 3問以上該当した方【N=90】

① 年齢階級別割合



② 居住地域別



問2(1)から(5)までの運動器の機能について問う設問のうち、3問以上該当する場合は、厚生労働省が定める基準において「機能低下」と評価されるが、今回調査では、全体の1割にあたる90名がそれに該当。

年齢階級別では、85歳以上で2割以上、90歳以上になると4人に1人が該当し、居住地域別では、大きな地域差はないものの、西新冠地区で若干該当する割合が高くなっている。

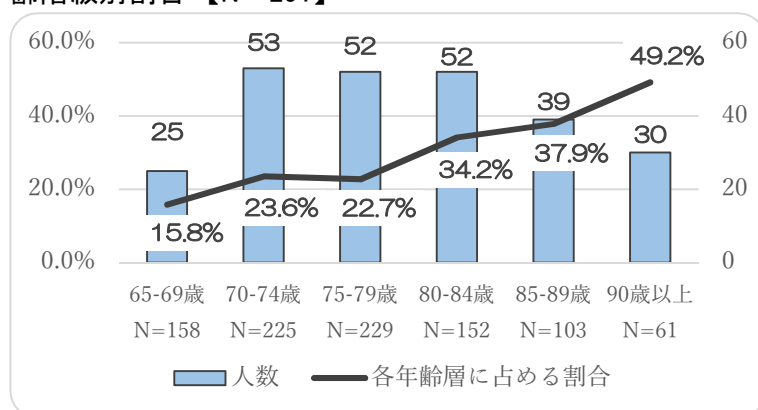
(6) 週に1回以上は外出していますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	ほとんど外出しない	6.7% (62 名)	8.9% (82 名)
2	週 1 回	20.3% (189 名)	20.3% (188 名)
3	週 2 ～ 4 回	41.4% (385 名)	44.2% (408 名)
4	週 5 回以上	30.7% (285 名)	25.4% (235 名)
	無回答	0.9% (8 名)	1.2% (11 名)

閉じこもり傾向あり

今回 27.0% (251 名)
前回 29.2% (270 名)

○ 「1. ほとんど外出しない」「2. 週1回」と回答した方の年齢階級別割合 【N=251】



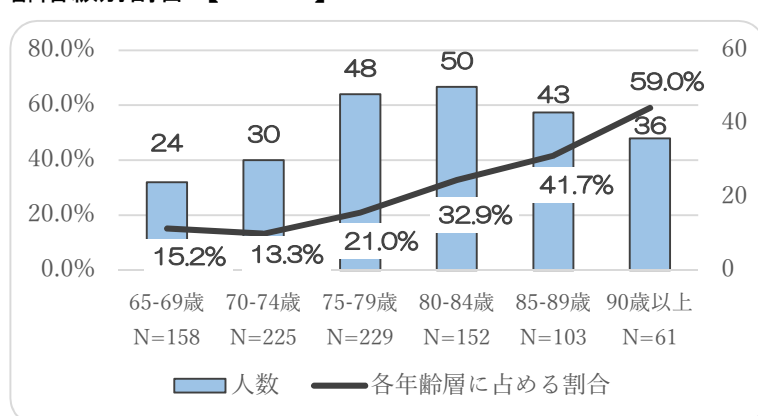
外出頻度について、約3割(30.7%)は「週5回以上」と回答。

一方、3割弱(27.0%)が「週1回」以下と回答し、前回調査から人数等減少しているものの、251名に閉じこもり傾向が見られる。特に85歳以上で4割弱、90歳以上で約半数の方が外出機会の少ない状況。

(7) 1年前と比べて外出の回数が減っていますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	とても減っている	5.3% (49 名)	5.8% (54 名)
2	減っている	19.6% (182 名)	25.0% (231 名)
3	あまり減っていない	38.5% (358 名)	36.6% (338 名)
4	減っていない	35.5% (330 名)	32.0% (296 名)
	無回答	1.1% (10 名)	0.5% (5 名)

○ 「1. とても減っている」「2. 減っている」と回答した方の年齢階級別割合 【N=231】



外出頻度についての1年前との比較では、4人に1人(24.9%)は「とても減っている」「減っている」と回答。前回調査からは人数等減少しているものの、231名が実感している。特に75歳頃を境に外出機会が減る方の割合が増える傾向にある。

(8)(7)で「1. とても減っている」「2. 減っている」と回答した方
外出回数が減っている原因はなんですか(複数回答) 【N=231】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】	[今回]
1	感染症予防のため	19.0% (44 名)	58.6% (167 名)	19.0%
2	足腰が痛いため	49.4% (114 名)	41.8% (119 名)	49.4%
3	外での楽しみがない	25.1% (58 名)	20.7% (59 名)	25.1%
4	病気や障がいがあるため	18.6% (43 名)	12.6% (36 名)	18.6%
5	経済的な理由	18.6% (43 名)	10.5% (30 名)	18.6%
6	トイレが心配	15.2% (35 名)	8.1% (23 名)	15.2%
7	目や耳が不自由なため	8.2% (19 名)	6.3% (18 名)	8.2%
8	交通手段がないため	17.7% (41 名)	13.3% (38 名)	17.7%
9	その他	17.3% (40 名)	6.7% (19 名)	17.3%

○ 「9. その他」

- ・ 体力や筋力が低下したため・転倒の不安があるため・高齢のため (5 名)
- ・ 仕事を辞めたため (4 名)
- ・ 用事がない (3 名)
- ・ 出るのが億劫 (3 名)
- ・ 興味がなくなった・気が行き届かなくなったため (3 名)
- ・ 家族の介護があるため・家族が心配なため (3 名)
- ・ 通院や買い物する回数が少なくなったため (2 名)
- ・ 物価やガソリン代が高くなったため (2 名)
- ・ 出不精になった
- ・ 車の運転をやめたため
- ・ サークルをやめたため
- ・ 友達もみな年をとり、遊びに出歩かなくなった
- ・ なじみの店が閉店したため
- ・ 外出を止められている
- ・ 風が強く続く日が多いため
- ・ なんとなく
- ・ 人との会話を好まないため
- ・ 家事やその他の仕事があるため
- ・ 子どもの送り迎えをしていたが、なくなったため
- ・ 転入したばかりで片付け中のため
- ・ 地域の集まりに行っていたが、ちょっとしたいじめがあったため

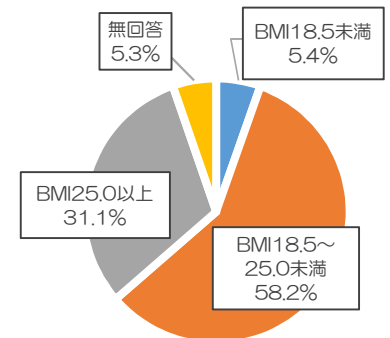
外出回数が減っている原因については、「②足腰が痛いため」(49.4%)が最も多く、次いで「③外での楽しみがない」(25.1%)となっている。前回調査では、新型コロナウイルス感染症の影響により「①感染症予防のため」が最も多く、約 6 割の方が選択していたが、今回調査では大きく減少している。また、少数意見として、気力や意欲の低下によるもの、介護など家族の状況によるものも原因として挙げられている。

問3

食べることについて

(1) 身長と体重 【N=929】

		今 回	前 回【R5】
1	BMI18.5 未満	5.4% (50 名)	5.7% (53 名)
2	BMI18.5～25.0 未満	58.2% (541 名)	58.3% (539 名)
3	BMI25.0 以上	31.1% (289 名)	32.5% (300 名)
	無回答	5.3% (49 名)	3.5% (32 名)



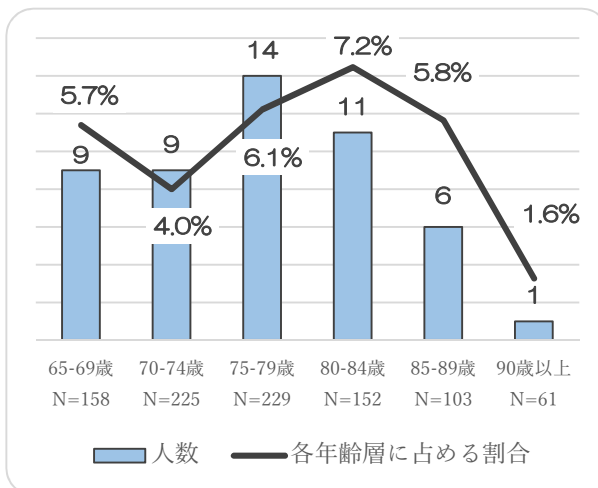
※ BMI（肥満度）とは
肥満度を測るための国際的な指標

- ・ 18.5 未満 「低 体 重」
- ・ 18.5～25.0 未満 「普通体重」
- ・ 25.0 以上 「肥 満」

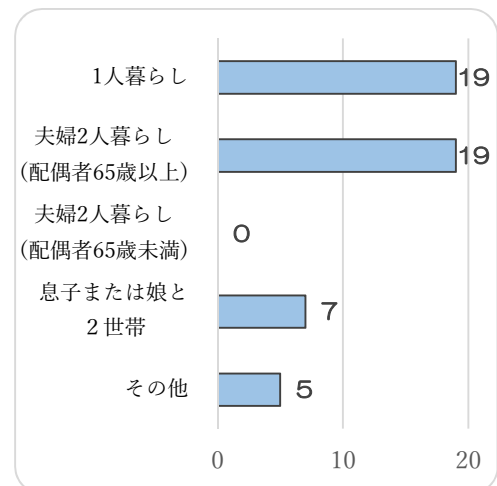
※ BMI の計算式
 $\text{体重 (kg)} \div \text{身長 (m)} \div \text{身長 (m)}$

○ 「BMI 18.5 未満」の方(低体重) 【N=50】

① 年齢階級別

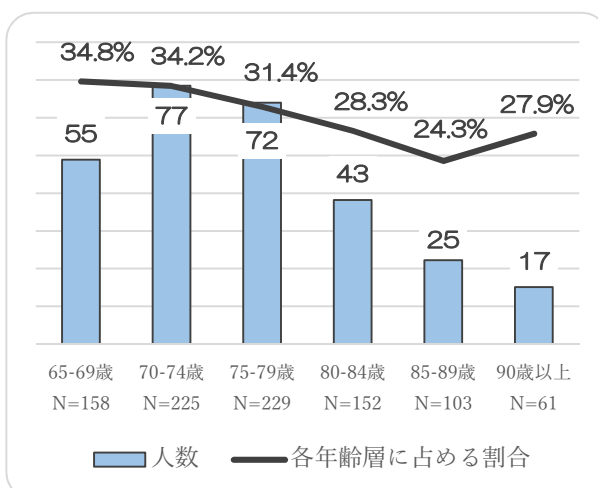


② 家族構成別

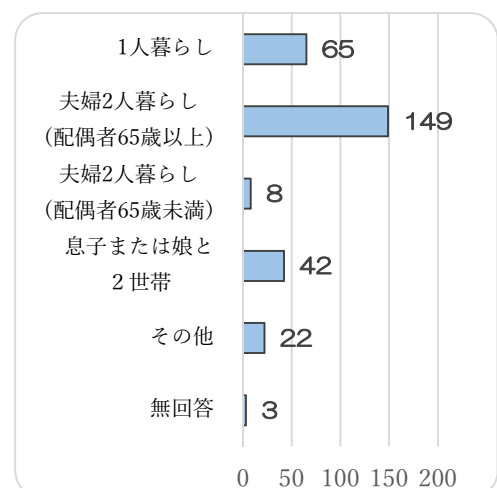


○ 「BMI 25.0 以上」の方(肥満) 【N=289】

① 年齢階級別



② 家族構成別



身長と体重の値から算出されるBMI(肥満度)では、回答者の約 60%が「普通体重」、約 30%が「肥満」、約 5%が「低体重」と判定され、この割合は前回調査と同様の結果となっている。

「低体重」では、前期高齢者(65 歳から 74 歳まで)よりも後期高齢者(75 歳以上)の方が該当する割合が高くなっており、反対に「肥満」では、前期高齢者の方が該当する割合が高くなっている。

また、家族構成別では、「低体重」「肥満」とともに「夫婦 2 人暮らし(夫または妻 65 歳以上)」が最も多いが、「低体重」では「1 人暮らし」の方の割合も高くなっている。

(2) 半年前と比べて固いものが食べにくくなりましたか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	28.6% (266 名)	31.7% (293 名)
2	いいえ	70.1% (651 名)	67.5% (624 名)
	無回答	1.3% (12 名)	0.8% (7 名)

固いものが食べにくくなったかについて、3 割弱(28.6%)が「はい」と回答。前回の調査結果と比べると人数自体は減っているものの、266 名が実感している。

(3) お茶や汁物等でむせることがありますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	28.3% (263 名)	29.1% (269 名)
2	いいえ	70.7% (657 名)	70.5% (651 名)
	無回答	1.0% (9 名)	0.4% (4 名)

汁物等でむせることがあるかについても、3 割弱(28.3%)が「はい」と回答。上記設問と同様に、前回調査から若干減っているものの、263 名がむせを経験している。

(4) 口の渇きが気になりますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	21.3% (198 名)	24.9% (230 名)
2	いいえ	77.7% (722 名)	74.0% (684 名)
	無回答	1.0% (9 名)	1.1% (10 名)

口の渇きが気になるかについて、約 2 割(21.3%)が「はい」と回答。前回調査と比べて人数は大きく減っているものの、198 名が唾液の分泌について気になっている状況である。

※ 以下3つの設問のうち、次のとおり選択した方

(2) 半年前と比べて固いものが食べにくくなりましたか ⇒ 「1. はい」

(3) お茶や汁物等でむせることがありますか ⇒ 「1. はい」

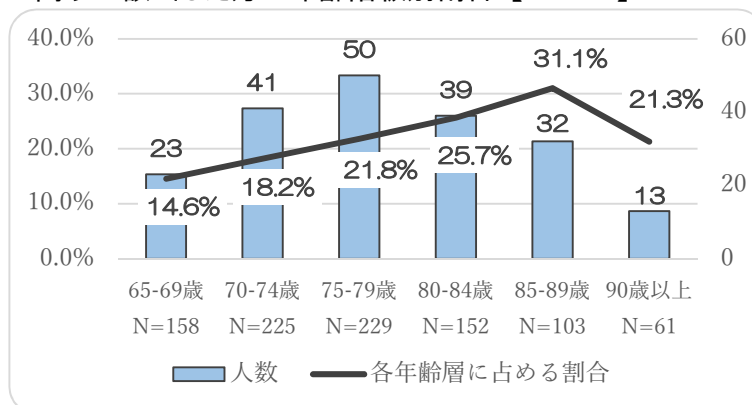
(4) 口の渇きが気になりますか ⇒ 「1. はい」

	今 回	前 回【R5】
該当なし	48.0% (446 名)	45.1% (417 名)
1 問該当	28.3% (263 名)	29.4% (272 名)
2 問該当	15.2% (141 名)	16.0% (148 名)
全て該当	6.1% (57 名)	7.8% (72 名)
無回答項目あり	2.4% (22 名)	1.6% (15 名)

厚生労働省が定める基準において、2問以上該当する場合、『口腔機能の低下』と認定

今回 21.3% (198 名)
前回 23.8% (220 名)

○ 2問以上該当した方の年齢階級別割合【N=198】



問 3(2)から(4)までの口腔機能について問う設問のうち、2 問以上該当する場合は、厚生労働省が定める基準において「機能低下」と評価されるが、今回調査では、全体の約 2 割にあたる 198 名が機能低下として該当。前回調査と比較すると、人数・割合ともに減少した結果となっている。

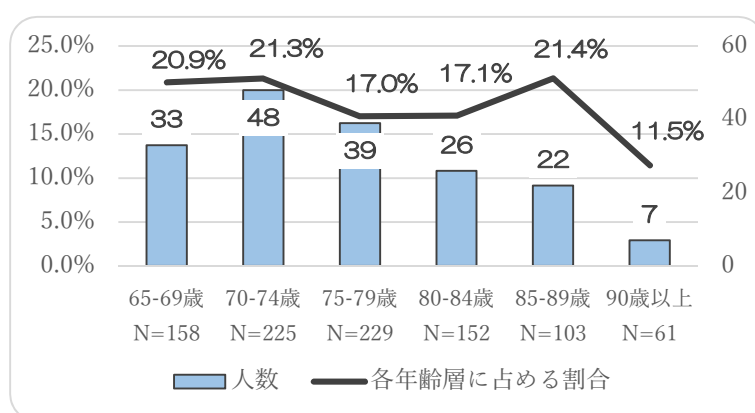
年齢階級別では、70 歳代の 20.0% (454 名中 91 名)、80 歳代の 27.8% (255 名中 71 名)に機能低下が見られる。

(5) 歯の数と入れ歯の利用状況について教えてください 【N=929】

(成人の歯の数は、親知らずを含めて32本です)

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	歯は 20 本以上あり、入れ歯を使っている	9.7% (90 名)	9.8% (91 名)
2	歯は 20 本以上あり、入れ歯を使っていない	22.2% (206 名)	17.9% (165 名)
3	歯は 19 本以下で、入れ歯を使っている	45.0% (418 名)	49.9% (461 名)
4	歯は 19 本以下で、入れ歯を使っていない	18.8% (175 名)	18.6% (172 名)
	無回答	4.3% (40 名)	3.8% (35 名)

○「4. 歯は 19 本以下で、入れ歯を使っていない」と回答した方の年齢階級別割合 【N=175】



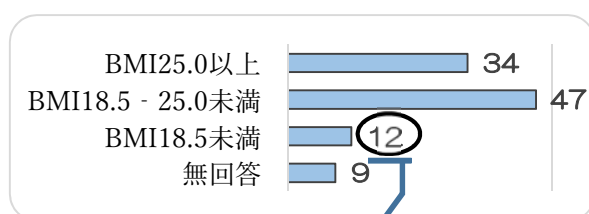
義歯の使用状況と歯数について、「歯は 20 本以上、入れ歯あり」の方は、22.2% (206 名) おり、前回の 17.9% (165 名) から大きく増加している。

一方、「歯は 19 本以下、入れ歯なし」の方は、前回調査からほぼ増減はないものの、175 名となっている。

(6) 6ヶ月間で2～3kg 以上体重が減りましたか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	11.0% (102 名)	11.8% (109 名)
2	いいえ	87.4% (812 名)	87.6% (809 名)
	無回答	1.6% (15 名)	0.6% (6 名)

○「1. はい」と回答した方の BMI (肥満度) 別人数 【N=102】



厚生労働省が定める基準において、『低栄養』と認定

今回 1.3% (12 名)
前回 1.3% (12 名)

半年間の 2～3kg 以上の体重減少については、回答者の約 1 割にあたる 102 名が「はい」と回答している。そのうち、問 3(1)の BMI において、18.5 未満の「低体重」と判定された方は、厚生労働省が定める基準において「低栄養」と評価されるが、今回調査では前回同様、回答者の 1.3%にあたる 12 名にその傾向が見られている。

(7) だれかと一緒に食事をすることはありますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	毎日ある	52.7% (490 名)	51.8% (479 名)
2	週に何度かある	8.2% (76 名)	6.5% (60 名)
3	月に何度かある	16.0% (149 名)	16.0% (148 名)
4	年に何度かある	11.9% (111 名)	14.5% (134 名)
5	ほとんどない	9.7% (90 名)	10.4% (96 名)
	無回答	1.4% (13 名)	0.8% (7 名)

孤食となっている方

今回 21.6% (201 名)
前回 24.9% (230 名)

○ 「4. 年に何度かある」「5. ほとんどない」と回答した方の外出状況 【N=201】

問 2 (6)		週に 1 回以上は外出していますか				
		1. ほとんど 外出しない	2. 週 1 回	3. 週 2～4 回	4. 週 5 回以上	
問 3 (7)	だれかと一緒に食事 をすることはありま すか	4. 年に何度かある	10 名	41 名	38 名	27 名
		5. ほとんどない	14 名	22 名	34 名	19 名

⇒ 閉じこもり傾向があり、孤食状態にある方 87 名

だれかと一緒に食事をする機会については、半数以上(52.7%)が「毎日ある」と回答している。

一方で、「年に何度かある」「ほとんどない」といった「孤食」の状況にある方は、回答者の 21.6%となっており、前回調査と比べて人数等は減っているものの、201 名が該当している。さらに、そのうち 87 名は閉じこもりとなっている傾向にあり、慢性的な孤食状態にある。

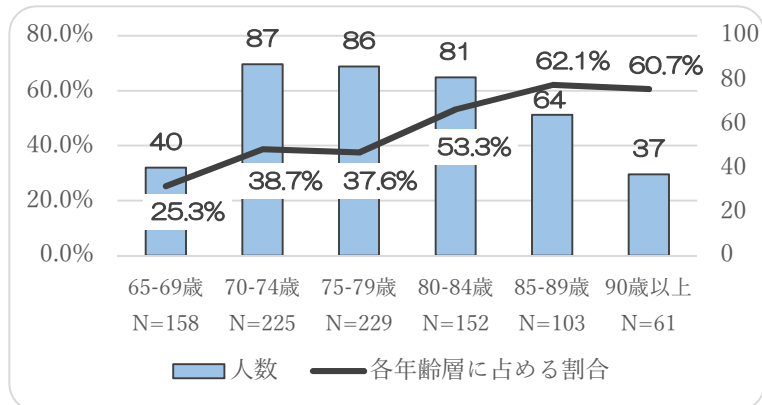
問4

毎日の生活について

(1) もの忘れが多いと感じますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	42.5% (395 名)	51.0% (471 名)
2	いいえ	56.2% (522 名)	47.8% (442 名)
	無回答	1.3% (12 名)	1.2% (11 名)

○ 「1. はい」と回答した方の年齢階級別割合 【N=395】



○ 「問 2(6) 外出頻度」との関連性

問 2 (6)		問 4 (1)	
		もの忘れが多いと感じますか	
		1. はい	2. いいえ
週に1回以上は外出していますか	「ほとんど外出しない」または「週1回」	47.0% (116 名)	53.0% (131 名)
	「週2～4回」または「週5回以上」	41.2% (273 名)	58.8% (390 名)

⇒ 閉じこもり傾向にある方のうち、47.0%(116 名)はもの忘れを実感

もの忘れが多いと実感しているかとの問いについては、42.5%が「はい」と回答。前回調査から大きく減少しているものの、395 名がもの忘れの多さを実感している。

年齢階級別では、年齢が上がるにつれて、「はい」と回答する方の割合が高くなり、80 歳以上の半数以上、85 歳以上の 6 割以上が該当している。

また、外出頻度との関係性について、閉じこもり傾向にある方は、ない方と比べると、もの忘れが多いと感じる方の割合が高くなっている。

(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	90.3% (839 名)	90.4% (835 名)
2	いいえ	9.1% (85 名)	9.2% (85 名)
	無回答	0.5% (5 名)	0.4% (4 名)

自分で調べて電話をかけているかとの問いでは、前回とほぼ変わらず、9割(90.3%)以上が「はい」と回答。

(3) 今日が何月何日か分からない時がありますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	21.0% (195 名)	22.9% (212 名)
2	いいえ	78.1% (726 名)	76.1% (703 名)
	無回答	0.9% (8 名)	1.0% (9 名)

何月何日か分からないことがあるかとの問いについても、前回調査とほぼ変わらず、約8割弱(78.1%)が「いいえ」と回答。

※ 以下3つの設問のうち、次のとおり選択した方

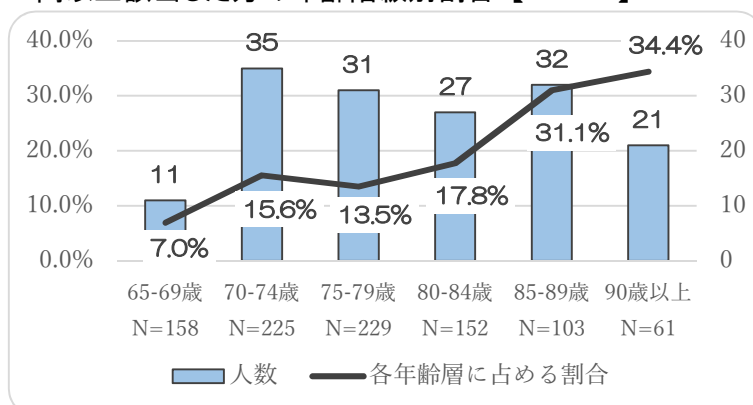
- (1) もの忘れが多いと感じますか ⇒ 「1. はい」
- (2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか ⇒ 「2. いいえ」
- (3) 今日が何月何日かわからない時がありますか ⇒ 「1. はい」

	今 回	前 回 【R5】
該当なし	45.6% (424 名)	36.9% (341 名)
1問該当	35.6% (331 名)	42.6% (394 名)
2問該当	14.2% (132 名)	15.4% (142 名)
全て該当	2.7% (25 名)	3.0% (28 名)
無回答項目あり	1.8% (17 名)	2.1% (19 名)

2問以上該当する場合、『認知機能の低下』と認定

今回 16.9% (157 名)
前回 18.4% (170 名)

○ 2問以上該当した方の年齢階級別割合 【N=157】



問4(1)から(3)までの認知機能を問う設問のうち、2問以上の該当で「機能低下」と判定する場合、回答者の16.9%(157名)にその傾向が見られる。

年齢階級別では、年齢を重ねるにつれ機能低下している割合が高くなり、85歳を過ぎると、3割以上の方にその兆候が見られる。

(4) 自分で車を運転したり、バスに乗って1人で外出していますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	できるし、している	77.6% (721 名)	75.5% (698 名)
2	できるけどしていない	12.2% (113 名)	11.4% (105 名)
3	できない	9.0% (84 名)	12.2% (113 名)
	無回答	1.2% (11 名)	0.9% (8 名)

○ 「3. できない」と回答した方の家族構成と居住地域 【N=84】

	市街地 地区	新冠沢 地区	西新冠 地区	合 計
1 人暮らし	18 名	1 名	7 名	<u>26 名</u>
夫婦 2 人暮らし (配偶者 65 歳以上)	20 名	5 名	4 名	29 名
夫婦 2 人暮らし (配偶者 65 歳未満)	0 名	0 名	0 名	0 名
息子や娘との 2 世帯	8 名	7 名	4 名	19 名
その他	5 名	2 名	2 名	9 名

※無回答 1 名

車やバスを利用した外出について、8 割弱 (77.6%) は「できるし、している」と回答。

一方、1 割 (9.0%) にあたる 84 名は「できない」と回答し、うち 26 名は「1 人暮らし」となっている。

(5) 自分で食品や日用品の買い物をしていますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	できるし、している	84.9% (789 名)	83.4% (771 名)
2	できるけどしていない	11.2% (104 名)	10.8% (100 名)
3	できない	3.0% (28 名)	5.3% (49 名)
	無回答	0.9% (8 名)	0.4% (4 名)

○ 「3. できない」と回答した方の家族構成と居住地域 【N=28】

	市街地 地区	新冠沢 地区	西新冠 地区	合 計
1 人暮らし	3 名	2 名	2 名	<u>7 名</u>
夫婦 2 人暮らし (配偶者 65 歳以上)	10 名	1 名	1 名	12 名
夫婦 2 人暮らし (配偶者 65 歳未満)	0 名	0 名	0 名	0 名
息子や娘との 2 世帯	4 名	4 名	0 名	8 名
その他	1 名	0 名	0 名	1 名

食品や日用品の買い物について、8 割以上 (84.9%) が「できるし、している」と回答。

一方、28 名は「できない」と回答し、うち 7 名は「1 人暮らし」となっている。

(6) 自分で食事の用意をしていますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	できるし、している	77.3% (718 名)	74.5% (688 名)
2	できるけどしていない	17.3% (161 名)	18.5% (171 名)
3	できない	4.7% (44 名)	6.7% (62 名)
	無回答	0.6% (6 名)	0.3% (3 名)

○ 「3. できない」と回答した方の家族構成と居住地域 【N=44】

	市街地 地区	新冠沢 地区	西新冠 地区	合 計
1 人暮らし	0 名	1 名	2 名	<u>3 名</u>
夫婦 2 人暮らし (配偶者 65 歳以上)	14 名	5 名	9 名	28 名
夫婦 2 人暮らし (配偶者 65 歳未満)	1 名	0 名	0 名	1 名
息子や娘との 2 世帯	2 名	5 名	0 名	7 名
その他	3 名	0 名	1 名	4 名

※無回答 1 名

食事の用意について、8 割弱(77.3%)は「できるし、している」と回答。
一方、44 名は「できない」と回答し、うち 3 名は「1 人暮らし」となっている。

(7) 自分で請求書の支払いをしていますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	できるし、している	79.9% (742 名)	80.8% (747 名)
2	できるけどしていない	15.2% (141 名)	14.7% (136 名)
3	できない	3.7% (34 名)	3.9% (36 名)
	無回答	1.3% (12 名)	0.5% (5 名)

(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	できるし、している	80.8% (751 名)	77.6% (717 名)
2	できるけどしていない	13.9% (129 名)	16.8% (155 名)
3	できない	4.4% (41 名)	5.4% (50 名)
	無回答	0.9% (8 名)	0.2% (2 名)

問 4 (7) \ 問 4 (8)		自分で預貯金の出し入れをしていますか		
		1. できるし、 している	2. できるけど、 していない	3. できない
自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している	703 名	36 名	3 名
	2. できるけどしていない	42 名	88 名	11 名
	3. できない	2 名	5 名	27 名

⇒ 金銭管理が難しい方 27 名

○ (7)(8)の両設問で「3. できない」と回答した方の家族構成と居住地域 【N=27】

	市街地 地区	新冠沢 地区	西新冠 地区	合 計
1 人暮らし	2 名	1 名	0 名	3 名
夫婦 2 人暮らし (配偶者 65 歳以上)	10 名	2 名	2 名	14 名
夫婦 2 人暮らし (配偶者 65 歳未満)	0 名	0 名	0 名	0 名
息子や娘との 2 世帯	3 名	3 名	0 名	6 名
その他	3 名	1 名	0 名	4 名

(7) 及び (8) の金銭管理に関する各設問では、「できるし、している」と回答した方はそれぞれ約 8 割となっている。また、両設問とも「できるし、している」と回答した方は 703 名で、回答者の 75.7% を占めている。

一方で、両設問とも「できない」と回答する方は 27 名おり、うち 3 名は「1 人暮らし」となっている。

(9) 友人の家を訪ねていますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	57.4% (533 名)	58.5% (541 名)
2	いいえ	41.6% (386 名)	40.7% (376 名)
	無回答	1.1% (10 名)	0.8% (7 名)

(10) 家族や友人の相談にのっていますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	74.7% (694 名)	73.8% (682 名)
2	いいえ	23.4% (217 名)	24.4% (225 名)
	無回答	1.9% (18 名)	1.8% (17 名)

問 4 (9) \ 問 4 (10)		家族や友人の相談に のっていますか	
		1. はい	2. いいえ
友人の家を訪ねてい ますか	1. はい	472 名	54 名
	2. いいえ	219 名	163 名

(9) 及び(10)の他者との関わりに関する設問において、友人の家を訪ねているかについては 57.4% (533 名) が、家族や友人の相談にのっているかについては 74.7% (694 名) が「はい」と回答しており、前回調査の結果と比べても大きな差は見られなかった。

両設問とも「はい」と回答した方は、回答者の 50.8%にあたる 472 名だったのに対し、両設問とも「いいえ」と回答した方は 17.5%にあたる 163 名となっている。

問5

就労について

(1)現在の就労状況について 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回【R5】
1	常勤（フルタイム）	8.9%（83名）	—
2	非常勤（パート・アルバイト）	15.8%（147名）	—
3	自営業（家業含む）	17.1%（159名）	—
4	求職中	1.2%（11名）	—
5	働いていない・引退した	53.1%（493名）	—
	無回答	3.9%（36名）	—

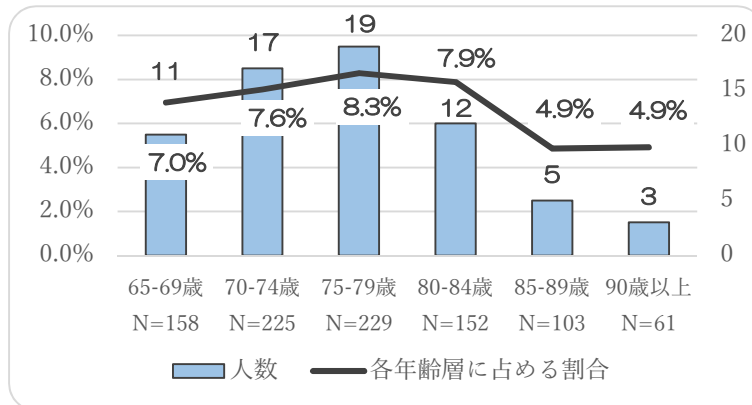
収入を得る労働
をしている方

今回 41.6%
(389名)

(2)(1)「5. 働いていない・引退した」と回答した方 働きたいと思いますか 【N=493】

	選 択 肢	今 回	前 回【R5】
1	はい	13.6%（67名）	—
2	いいえ	81.9%（404名）	—
	無回答	4.5%（22名）	—

○「1. はい」と回答した方の年齢階級別割合 【N=67】



現在の就労状況について、回答者の41.6%にあたる389名は「常勤（フルタイム）」「非常勤（パート・アルバイト）」「自営業」を選択しており、収入を得る労働をしている。

一方で、「働いていない・引退した」と回答した493名に対する、働きたいと思うかとの問いについては、67名が「はい」と回答。

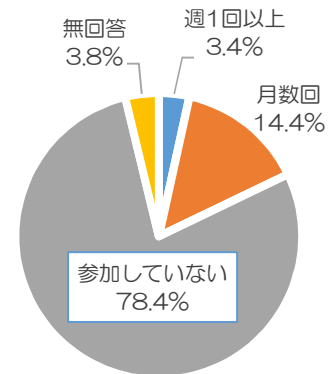
問6

地域での活動について

(1) 次のような会やサークル活動などにどのくらい参加していますか 【N=929】

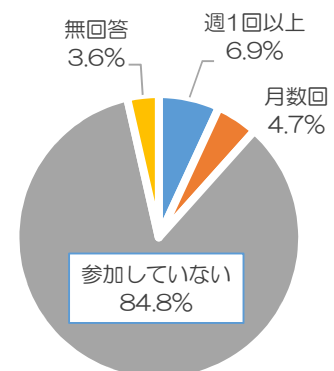
① ボランティアのグループ

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	週 4 回以上	0.5% (5 名)	0.5% (5 名)
2	週 2 ～ 3 回	1.3% (12 名)	2.1% (19 名)
3	週 1 回	1.6% (15 名)	1.9% (18 名)
4	月 1 ～ 3 回	3.7% (34 名)	5.4% (50 名)
5	年に数回	10.8% (100 名)	9.4% (87 名)
6	参加していない	78.4% (728 名)	78.0% (721 名)
	無回答	3.8% (35 名)	2.6% (24 名)



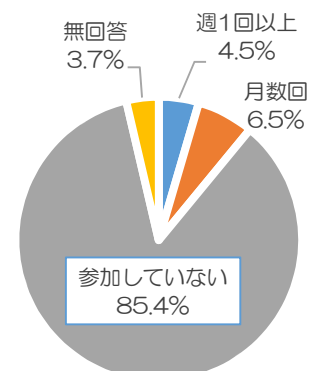
② 運動関係のグループ(ゲートボールや卓球サークルなど)

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	週 4 回以上	1.5% (14 名)	0.8% (7 名)
2	週 2 ～ 3 回	3.2% (30 名)	4.5% (42 名)
3	週 1 回	2.2% (20 名)	2.8% (26 名)
4	月 1 ～ 3 回	2.3% (21 名)	1.9% (18 名)
5	年に数回	2.5% (23 名)	2.7% (25 名)
6	参加していない	84.8% (788 名)	84.8% (784 名)
	無回答	3.6% (33 名)	2.4% (22 名)



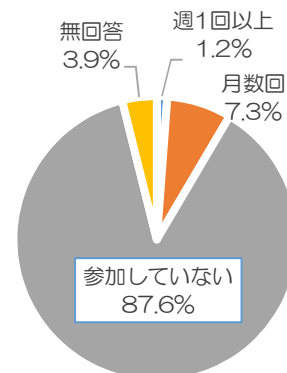
③ 趣味関係のグループ(カラオケや手芸サークルなど)

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	週 4 回以上	0.1% (1 名)	0.6% (6 名)
2	週 2 ～ 3 回	2.5% (23 名)	1.6% (15 名)
3	週 1 回	1.9% (18 名)	3.0% (28 名)
4	月 1 ～ 3 回	3.2% (30 名)	4.0% (37 名)
5	年に数回	3.2% (30 名)	3.2% (30 名)
6	参加していない	85.4% (793 名)	84.3% (779 名)
	無回答	3.7% (34 名)	3.1% (29 名)



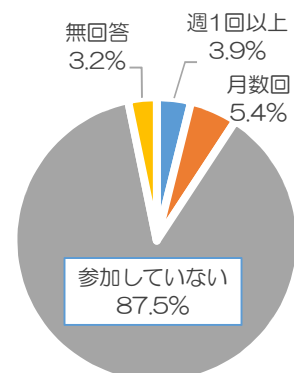
④ 学習・教養サークル(いきいき大学も含む)

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	週 4 回以上	0.1% (1 名)	0.1% (1 名)
2	週 2 ～ 3 回	0.2% (2 名)	0.2% (2 名)
3	週 1 回	0.9% (8 名)	0.8% (7 名)
4	月 1 ～ 3 回	2.2% (20 名)	1.5% (14 名)
5	年に数回	5.2% (48 名)	5.2% (48 名)
6	参加していない	87.6% (814 名)	88.3% (816 名)
	無回答	3.9% (36 名)	3.9% (36 名)



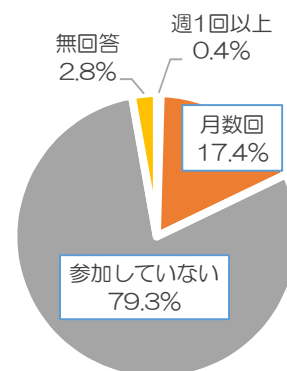
⑤ 介護予防のための通いの場(いきいき百歳体操など)

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	週 4 回以上	0.4% (4 名)	0.3% (3 名)
2	週 2 ～ 3 回	0.2% (2 名)	0.3% (3 名)
3	週 1 回	3.2% (30 名)	2.7% (25 名)
4	月 1 ～ 3 回	1.4% (13 名)	1.0% (9 名)
5	年に数回	4.0% (37 名)	2.5% (23 名)
6	参加していない	87.5% (813 名)	90.3% (834 名)
	無回答	3.2% (30 名)	2.9% (27 名)



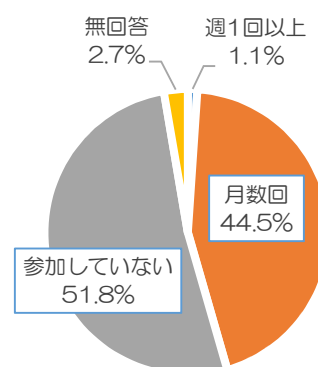
⑥ 老人クラブ

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	週 4 回以上	0.0% (0 名)	0.0% (0 名)
2	週 2 ～ 3 回	0.2% (2 名)	0.1% (1 名)
3	週 1 回	0.2% (2 名)	0.2% (2 名)
4	月 1 ～ 3 回	1.7% (16 名)	1.3% (12 名)
5	年に数回	15.7% (146 名)	13.6% (126 名)
6	参加していない	79.3% (737 名)	81.8% (756 名)
	無回答	2.8% (26 名)	2.9% (27 名)



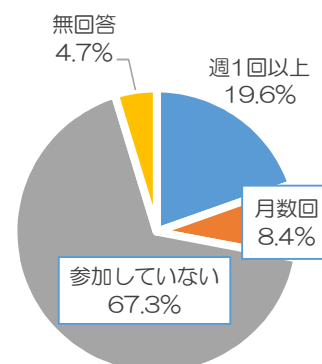
⑦ 町内会・自治会

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	週 4 回以上	0.3% (3 名)	0.3% (3 名)
2	週 2 ～ 3 回	0.2% (2 名)	0.3% (3 名)
3	週 1 回	0.5% (5 名)	0.4% (4 名)
4	月 1 ～ 3 回	3.0% (28 名)	2.3% (21 名)
5	年に数回	41.4% (385 名)	40.0% (370 名)
6	参加していない	51.8% (481 名)	54.4% (503 名)
	無回答	2.7% (25 名)	2.2% (20 名)



⑧ お金をもらう仕事

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	週 4 回以上	14.2% (132 名)	18.9% (175 名)
2	週 2 ～ 3 回	4.8% (45 名)	4.2% (39 名)
3	週 1 回	0.5% (5 名)	0.8% (7 名)
4	月 1 ～ 3 回	2.8% (26 名)	3.2% (30 名)
5	年に数回	5.6% (52 名)	4.9% (45 名)
6	参加していない	67.3% (625 名)	64.5% (596 名)
	無回答	4.7% (44 名)	3.5% (32 名)



各種社会活動への参加状況について、大半が「参加していない」と回答する一方で、「⑦町内会・自治会」の活動については、約半数の方は「年に数回」以上参加していると回答。また、「⑧お金をもらう仕事」については、前回の調査結果と比較すると人数・割合ともに減少しているものの、200 名以上が働かれており、うち 182 名は週 1 日以上勤務となっている。

※ 問6(1)の設問にある会やサークル活動の全てにおいて、「6. 参加していない」を選択した方

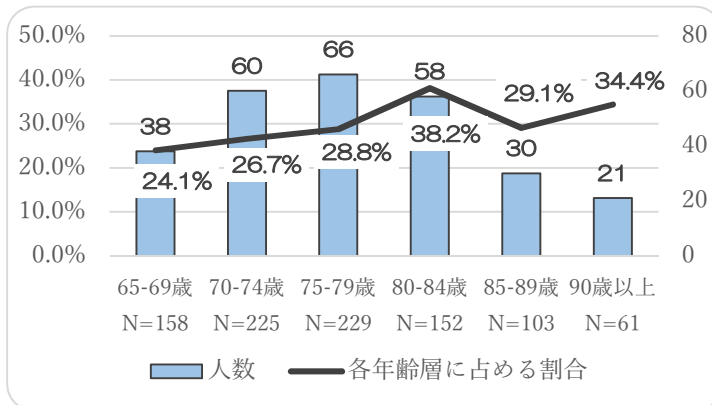
- ① ボランティアのグループ
- ② 運動関係のグループ(ゲートボールや卓球サークルなど)
- ③ 趣味関係のグループ(カラオケや手芸サークルなど)
- ④ 学習・教養サークル(いきいき大学も含む)
- ⑤ 介護予防のための通いの場(いきいき百歳体操など)
- ⑥ 老人クラブ
- ⑦ 町内会・自治会
- ⑧ お金をもらう仕事

全ての設問において
「6. 参加していない」を選択

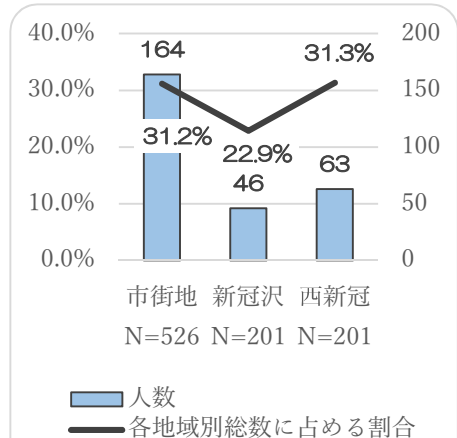
今回 29.4% (273 名)
前回 30.5% (282 名)

○ 全ての設問において「6. 参加していない」と回答した方【N=273】

① 年齢階級別割合



② 居住地域別

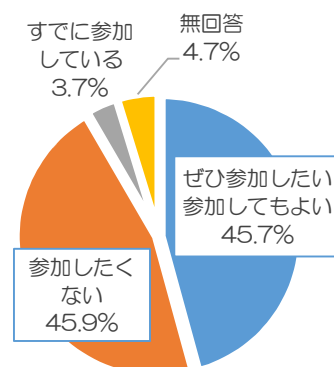


問6(1)①から⑧までの各種社会活動について、回答者の29.4%にあたる273名が全てにおいて「参加していない」と回答。

年齢階級別で見ると、80代をピークに年齢が上がるにつれて該当する割合が高くなり、80歳以上の34.5% (316名中109名) が社会活動から足が遠のいている状況となっている。また、居住地域別では、新冠沢地区が他の地区と比べて若干割合は低くなっている。

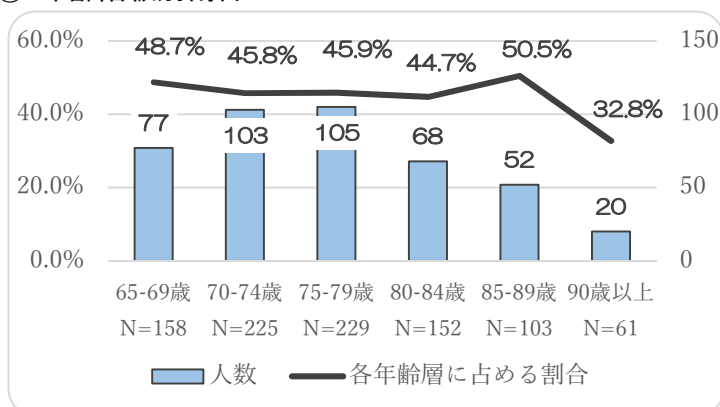
(2) 地域住民で、健康づくりのための活動や趣味等のグループ活動を行って、地域づくりを進めるとしたら、参加者として参加してみたいと思いますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回【R5】
1	ぜひ参加したい	6.2% (58 名)	5.7% (53 名)
2	参加してもよい	39.5% (367 名)	40.7% (376 名)
3	参加したくない	45.9% (426 名)	46.1% (426 名)
4	すでに参加している	3.7% (34 名)	3.8% (35 名)
	無回答	4.7% (44 名)	3.7% (34 名)

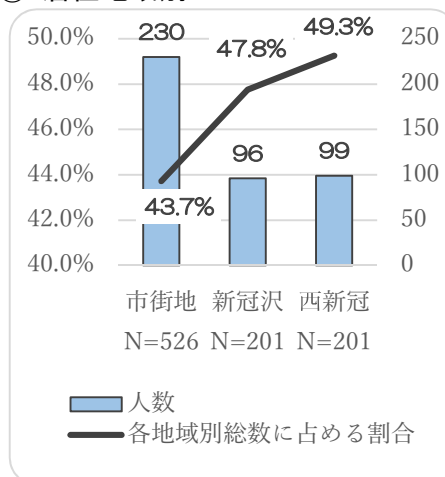


○ 「1. ぜひ参加したい」「2. 参加してもよい」と回答した方 【N=425】

① 年齢階級別割合



② 居住地域別



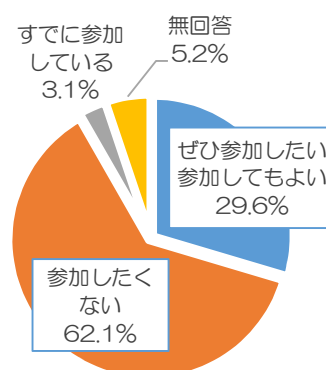
住民主体の地域づくりに対する「参加者側」としての関わりについて、回答者の45.7%にあたる425名が「ぜひ参加したい」「参加してもよい」と回答しており、「すでに参加している」と回答した方と合わせると、約5割の方に参加意欲の高さがうかがえる。

年齢階級別では、60代から80代までの広い年代において5割弱がこれに該当しており、居住地区別では、特に新冠沢地区や西新冠地区で高い割合となっている。

(3) 地域住民で、健康づくりのための活動や趣味等のグループ活動を行って、地域づくりを進めるとしたら、企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いませんか

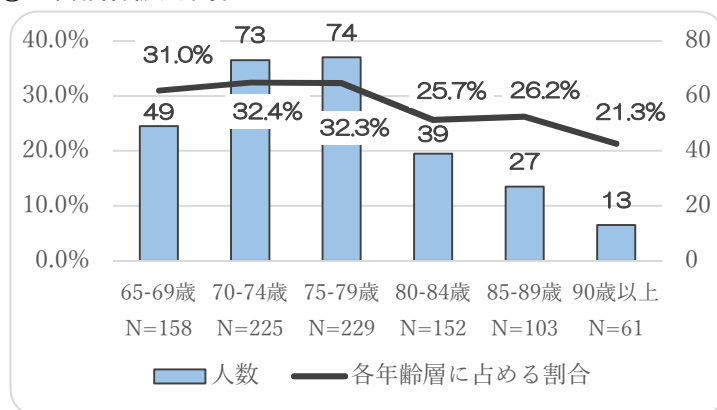
【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	ぜひ参加したい	1.9% (18 名)	2.2% (20 名)
2	参加してもよい	27.7% (257 名)	28.5% (263 名)
3	参加したくない	62.1% (577 名)	62.4% (577 名)
4	すでに参加している	3.1% (29 名)	1.9% (18 名)
	無回答	5.2% (48 名)	5.0% (46 名)

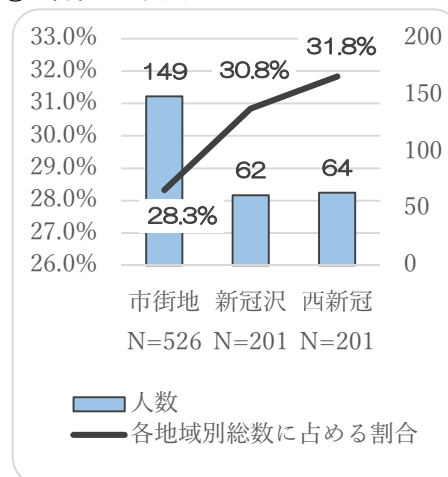


○ 「1. ぜひ参加したい」「2. 参加してもよい」と回答した方 【N=275】

① 年齢階級別割合



② 居住地域別



住民主体の地域づくりに対する「企画・運営側」としての関わりについて、回答者の 29.6%にあたる 275 名が「ぜひ参加したい」「参加してもよい」と回答。前問の「参加者側」としての関わりと比べると、人数等は劣るものの、「すでに参加している」と回答した方と合わせた約 300 名に意欲の高さがうかがえる。

年齢階級別では、60 代から 70 代までの約 3 割がこれに該当し、居住地区別では、前問と同様、新冠沢地区や西新冠地区で高い割合となっている。

問7

まわりの人との助け合いについて

(1) あなたの心配事やグチを聞いてくれる人はいますか(複数回答) 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回【R5】
1	配偶者（夫や妻）	50.9%（473 名）	45.5%（420 名）
2	同居している子ども	12.6%（117 名）	14.4%（133 名）
3	別居している子ども	35.1%（326 名）	40.0%（370 名）
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	30.6%（284 名）	31.3%（289 名）
5	近所の人	15.4%（143 名）	15.6%（144 名）
6	友人	42.0%（390 名）	44.3%（409 名）
7	その他	2.3%（ 21 名）	1.6%（ 15 名）
8	そのような人はいない	6.4%（ 59 名）	7.0%（ 65 名）

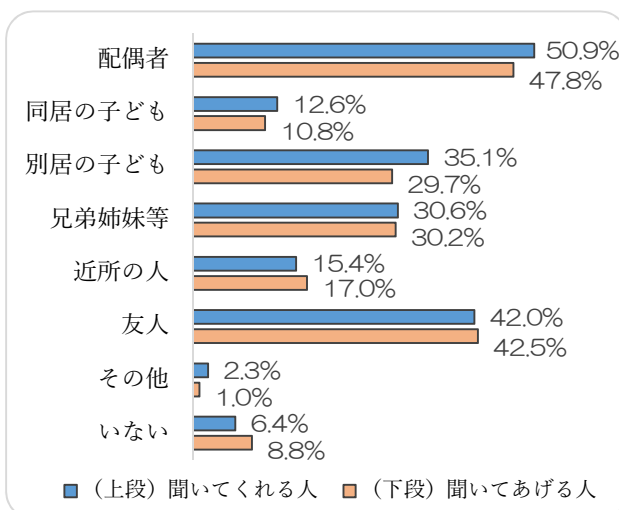
- 「7. その他」
- ・職場の人(3 名)
 - ・役場の人
 - ・ヘルパー
 - ・施設の人
 - ・お客さん
 - ・元妻
 - ・同居人
 - ・リハビリの先生

(2) 反対に、あなたが心配事やグチを聞いてあげる人はいますか(複数回答)

【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回【R5】
1	配偶者（夫や妻）	47.8%（444 名）	42.2%（390 名）
2	同居している子ども	10.8%（100 名）	12.1%（112 名）
3	別居している子ども	29.7%（276 名）	32.8%（303 名）
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	30.2%（281 名）	31.2%（288 名）
5	近所の人	17.0%（158 名）	16.8%（155 名）
6	友人	42.5%（395 名）	41.5%（383 名）
7	その他	1.0%（ 9 名）	3.1%（ 29 名）
8	そのような人はいない	8.8%（ 82 名）	10.6%（ 98 名）

- 「7. その他」
- ・お客さん(2 名)
 - ・同居人



自身の心配事等を聞いてくれる人、また、聞いてあげられる人の有無については、「配偶者(夫や妻)」や「友人」と回答する方が回答者の4割を占める。

一方で、「そのような人はいない」とする方は、前回調査時よりも人数は減っているものの、「聞いてくれる人はいない」が59名、「聞いてあげる人はいない」が82名となっている。

(3)あなたが病気で数日間寝込んだとき、看病や世話をしてくれる人はいますか

【N=929】

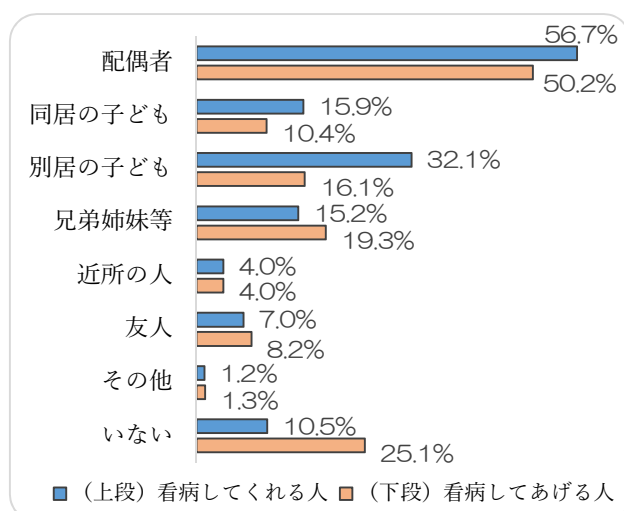
	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	配偶者（夫や妻）	56.7%（527 名）	51.7%（478 名）
2	同居している子ども	15.9%（148 名）	19.3%（178 名）
3	別居している子ども	32.1%（298 名）	34.5%（319 名）
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	15.2%（141 名）	15.9%（147 名）
5	近所の人	4.0%（ 37 名）	4.3%（ 40 名）
6	友人	7.0%（ 65 名）	8.7%（ 80 名）
7	その他	1.2%（ 11 名）	1.9%（ 18 名）
8	そのような人はいない	10.5%（ 98 名）	10.5%（ 97 名）

- 「7. その他」
・同居人(2 名)
・元妻
・支援員

(4)反対に、看病や世話をしてあげる人はいますか(複数回答) 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	配偶者（夫や妻）	50.2%（466 名）	47.0%（434 名）
2	同居している子ども	10.4%（ 97 名）	12.2%（113 名）
3	別居している子ども	16.1%（150 名）	16.6%（153 名）
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	19.3%（179 名）	18.4%（170 名）
5	近所の人	4.0%（ 37 名）	4.8%（ 44 名）
6	友人	8.2%（ 76 名）	9.3%（ 86 名）
7	その他	1.3%（ 12 名）	1.9%（ 18 名）
8	そのような人はいない	25.1%（233 名）	26.0%（240 名）

- 「7. その他」
・同居人(2 名)

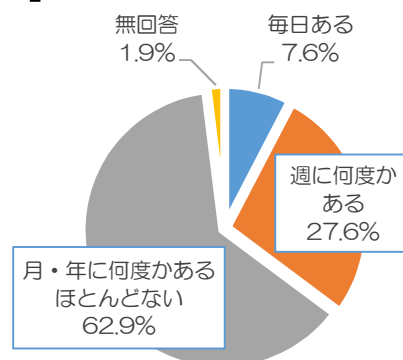


自身が寝込んだときに看病してくれる人、また、看病してあげられる人の有無について、それぞれ半数以上が「配偶者(夫や妻)」と回答している。

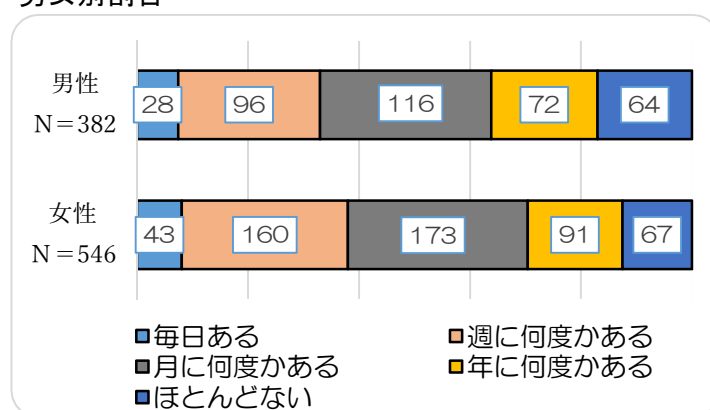
一方で、「そのような人はいない」とする方は、「看病してくれる人はいない」では 98 名、「看病してあげる人はいない」では 233 名となっている。

(5) 友人・知人と会う頻度はどのくらいですか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	毎日ある	7.6% (71 名)	—
2	週に何度かある	27.6% (256 名)	—
3	月に何度かある	31.2% (290 名)	—
4	年に何度かある	17.5% (163 名)	—
5	ほとんどない	14.1% (131 名)	—
	無回答	1.9% (18 名)	—



○ 男女別割合

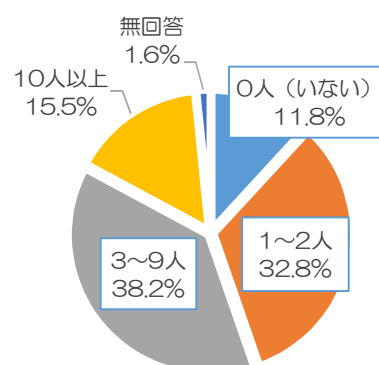


友人と会う機会について、「毎日」「週に何度か」と回答する方は、35.2% (327 名) となっているが、約 6 割 (584 名) は「月・年に何度か」など頻度が少なく、特に「ほとんどない」は、131 名となっている。

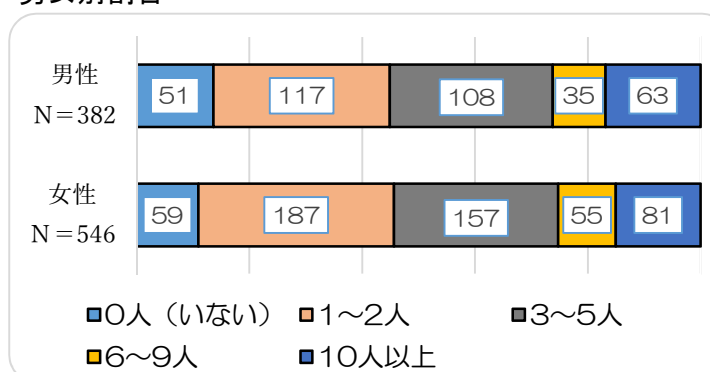
男女別では、男性よりも女性の方が「毎日」「週に何度か」など、頻回に友人・知人に会っている傾向にある。

(6) この1か月、何人の友人・知人と会いましたか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	0 人 (いない)	11.8% (110 名)	—
2	1 ～ 2 人	32.8% (305 名)	—
3	3 ～ 5 人	28.5% (265 名)	—
4	6 ～ 9 人	9.7% (90 名)	—
5	10 人以上	15.5% (144 名)	—
	無回答	1.6% (15 名)	—



○ 男女別割合



1か月間の交友人数については、「1～2人」の方が最も多く、32.8% (305 名) となっているが、1 割にあたる 110 名は「0人 (いない)」と回答。

男女別では、大きな差は見られないものの、若干男性の方が「0人 (いない)」の割合が高くなっている。

(7)よく会う友人・知人はどんな関係ですか(複数回答) 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回【R5】
1	近所・同じ地域の人	52.1% (484 名)	—
2	幼なじみ	8.4% (78 名)	—
3	学生時代の友人	14.2% (132 名)	—
4	仕事での同僚・元同僚	28.0% (260 名)	—
5	趣味や関心が同じ友人	26.0% (242 名)	—
6	ボランティア等の活動での友人	6.7% (62 名)	—
7	その他	4.8% (45 名)	—
8	そのような人はいない	8.2% (76 名)	—

○「9. その他」

- ・ デイサービス (3 名)
- ・ 昔近所だった人・昔からの友人・ママ友 (3 名)
- ・ 自治会関係の人 (2 名)
- ・ お客さん (2 名)
- ・ 会社関係
- ・ アパートの大家
- ・ 同居人の親族
- ・ 通院時に会う人
- ・ 猟友会の会員
- ・ あいあい荘の人
- ・ リハビリの先生
- ・ バスで会う人
- ・ 老人クラブ

よく会う友人・知人との関係性については、「①近所・同じ地域の人」(52.1%)が最も多く、次いで「④仕事での同僚・元同僚」(28.0%)、「⑤趣味や関心が同じ友人」(26.0%)となっている。
一方で、76 名は「⑧そのような人はいない」と回答している。

問8

健康について

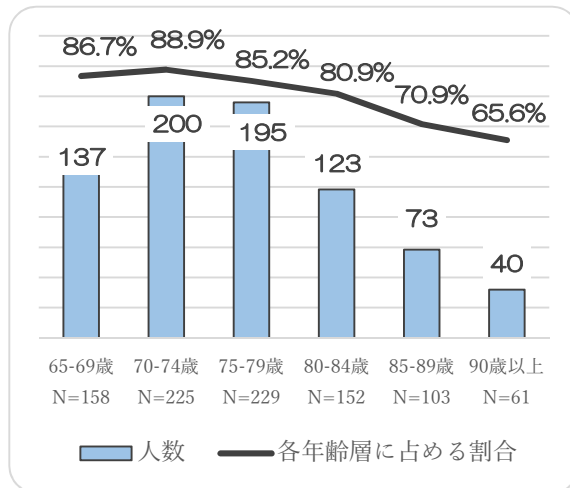
(1) あなたの現在の健康状態はどうか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	とてもよい	13.2% (123 名)	12.1% (112 名)
2	まあまあよい	69.5% (646 名)	70.1% (648 名)
3	あまりよくない	13.3% (124 名)	14.7% (136 名)
4	よくない	2.9% (27 名)	2.1% (19 名)
	無回答	1.0% (9 名)	1.0% (9 名)

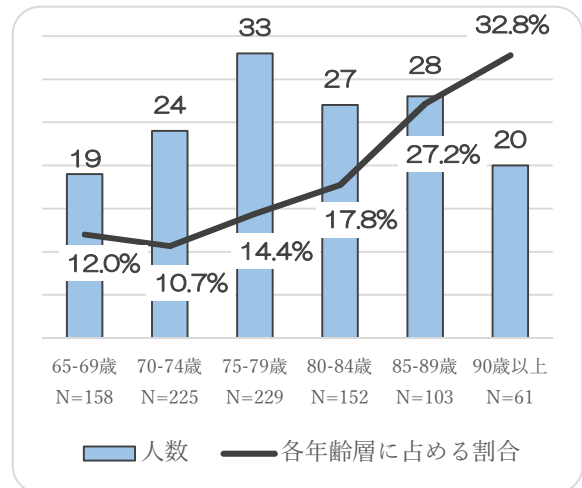
主観的健康観『高い』
今回 82.8% (769 名)
前回 82.2% (760 名)

主観的健康観『低い』
今回 16.3% (151 名)
前回 16.8% (155 名)

○ 「1. とてもよい」「2. まあまあよい」と回答した方の年齢階級別割合 【N=769】



○ 「3. あまりよくない」「4. よくない」と回答した方の年齢階級別割合 【N=151】



現在の健康状態について、前回調査時同様、8割以上(82.8%)が「とてもよい」「まあまあよい」と回答。年齢階級別では、60代では86.7%(158名中137名)、70代では87.0%(454名中395名)、80代では76.9%(255名中196名)、90代以上では65.6%(61名中40名)の方に主観的健康感の高さが見られ、年齢階級が低い層ほど自身が健康だと感じやすい傾向にある。

一方で、回答者の16.3%は、「よくない」「あまりよくない」と回答。60代では12.0%(158名中19名)、70代では12.6%(454名中57名)、80代では21.6%(255名中55名)、90代以上になると32.8%(61名中20名)の方に主観的健康観の低さが見られ、前述とは逆に年齢階級が高くなるにつれて、健康を感じにくくなっている。

(2) あなたは、現在どのくらい「幸せ」ですか(10点満点で) 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回【R5】
1	『 10 』	17.2% (160 名)	16.2% (150 名)
2	『 9 』	7.8% (72 名)	8.8% (81 名)
3	『 8 』	22.7% (211 名)	21.2% (196 名)
4	『 7 』	14.0% (130 名)	12.9% (119 名)
5	『 6 』	8.1% (75 名)	6.4% (59 名)
6	『 5 』	22.7% (211 名)	24.0% (222 名)
7	『 4 』	0.6% (6 名)	2.4% (22 名)
8	『 3 』	1.9% (18 名)	1.9% (18 名)
9	『 2 』	0.5% (5 名)	0.8% (7 名)
10	『 1 』	0.1% (1 名)	0.2% (2 名)
11	『 0 』	0.5% (5 名)	0.4% (4 名)
	無回答	3.8% (35 名)	4.8% (44 名)
	平 均	7.20	7.10

主観的幸福観『高得点層』

今回 61.7% (573 名)
前回 59.1% (546 名)

主観的幸福観『中得点層』

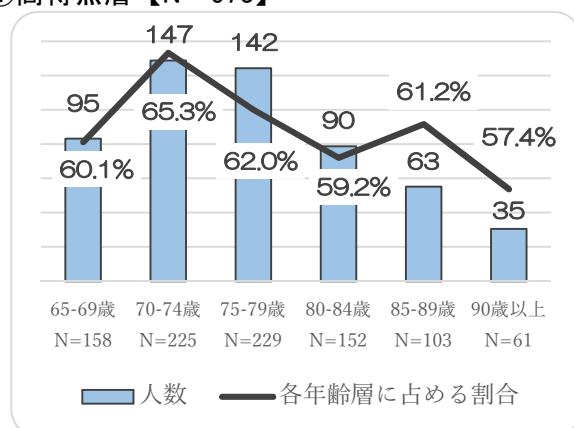
今回 31.4% (292 名)
前回 32.8% (303 名)

主観的幸福観『低得点層』

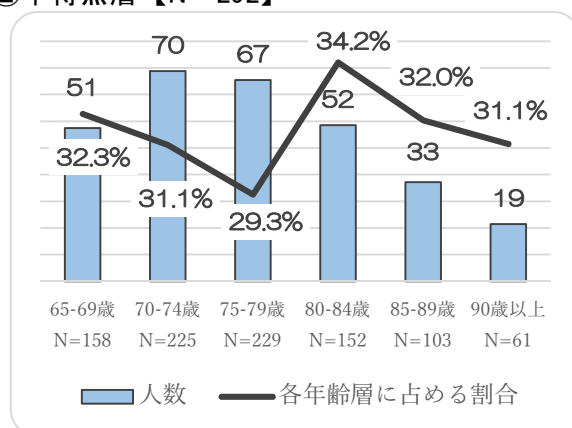
今回 3.1% (29 名)
前回 3.4% (31 名)

○ 年齢階級別割合

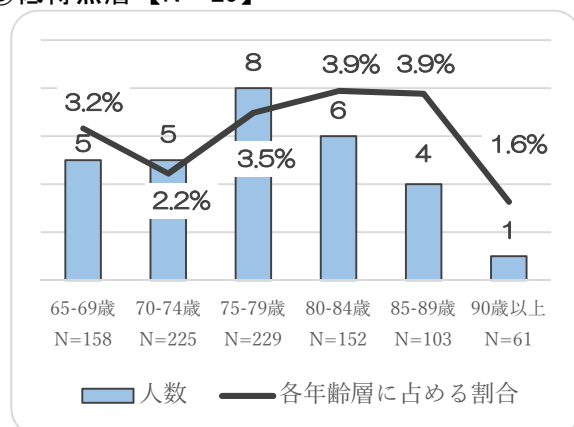
①高得点層【N=573】



②中得点層【N=292】



③低得点層【N=29】



主観的幸福感について、回答者の約 6 割(573 名)は「高得点(10～7 点)」、約 3 割(292 名)は「中得点(6～4 点)」となっている。平均点も前回の「7.10」から「7.20」へと若干上がっているが、一方で、29 名は「低得点(3～0 点)」となり、年齢階級に関係なく、どの年代にも万遍なくいる状況となっている。

(3)この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることはありましたか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	31.8% (295 名)	29.9% (276 名)
2	いいえ	67.0% (622 名)	69.4% (641 名)
	無回答	1.3% (12 名)	0.8% (7 名)

気分の沈みこみについて問う設問では、約 3 割 (295 名) が「はい」と回答。前回調査と比べ、若干増加している。

(4)この1か月間、どうしても物事に興味がわからなかったり、心から楽しめないと感じる事がよくありましたか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	20.6% (191 名)	18.7% (173 名)
2	いいえ	77.6% (721 名)	79.7% (736 名)
	無回答	1.8% (17 名)	1.6% (15 名)

心から楽しめないと感じることはあったかとの問いに対しては、約 2 割 (191 名) が「はい」と回答。前回調査から若干増加している。

(5)この1か月間、以前は楽にできていたことがおっくうに感じる事がありましたか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	43.6% (405 名)	40.9% (378 名)
2	いいえ	55.5% (516 名)	58.2% (538 名)
	無回答	0.9% (8 名)	0.9% (8 名)

おっくうに感じることはあったかとの問いについては、約 4 割 (405 名) が「はい」と回答。前回調査から若干増加している。

(6)この1か月間、自分が役に立つ人間だと思えないと感じる事がありましたか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	21.1% (196 名)	21.3% (197 名)
2	いいえ	77.4% (719 名)	77.1% (712 名)
	無回答	1.5% (14 名)	1.6% (15 名)

役に立つ人間だと思えないことはあったかとの問いに対しては、前回調査とほぼ同数の約 2 割 (196 名) が「はい」と回答している。

(7)この1か月間、わけもなく疲れたような感じがすることがありましたか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	37.0% (344 名)	32.0% (296 名)
2	いいえ	60.6% (563 名)	67.3% (622 名)
	無回答	2.4% (22 名)	0.6% (6 名)

わけもなく疲れたように感じるがあったかとの問いには、4割弱(344名)が「はい」と回答。前回調査と比べ、5%(約50人)増となっている。

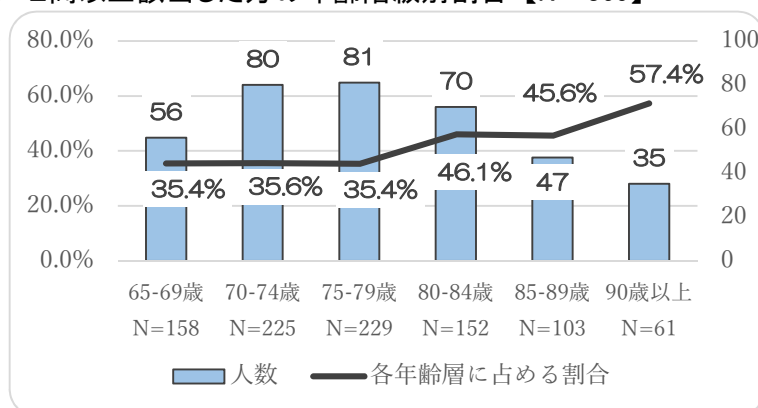
※ 以下5つの設問のうち、次のとおり選択した方

- (3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることはありましたか ⇒ 「1. はい」
- (4) この1か月間、どうしても物事に興味がわかなくなったり、心から楽しめないと感じる事がよくありましたか ⇒ 「1. はい」
- (5) この1か月間、以前は楽にできていたことがおっくうに感じる事がありましたか ⇒ 「1. はい」
- (6) この1か月間、自分が役に立つ人間だと思えないとすることがありましたか ⇒ 「1. はい」
- (7) この1か月間、わけもなく疲れたような感じがすることがありましたか ⇒ 「1. はい」

	今 回	前 回 【R5】
該当なし	35.2% (327 名)	40.8% (377 名)
1問該当	19.9% (185 名)	19.2% (177 名)
2問該当	15.2% (141 名)	13.9% (128 名)
3問該当	9.6% (89 名)	8.1% (75 名)
4問該当	8.1% (75 名)	7.8% (72 名)
全て該当	6.9% (64 名)	7.4% (68 名)
無回答項目あり	5.2% (48 名)	2.9% (27 名)

2問以上該当する場合、『うつ傾向』と認定
 今回 39.7% (369 名)
 前回 37.1% (343 名)

○ 2問以上該当した方の年齢階級別割合 【N=369】



問8(3)から(7)までのうつ傾向を問う設問のうち、2問以上の該当で「うつ傾向あり」と判定する場合、回答者の4割(369名)にその兆候が見られた。
 60～70代の約35%、80代では4割強、90代以上になると6割強が該当し、年齢が上がるにつれて「うつ傾向」と判定される割合が高くなっている。

(8)タバコは吸っていますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	ほぼ毎日吸っている	10.4% (97 名)	10.8% (100 名)
2	時々吸っている	3.3% (31 名)	2.2% (20 名)
3	吸っていたがやめた	28.6% (266 名)	27.3% (252 名)
4	もともと吸っていない	55.2% (513 名)	58.3% (539 名)
	無回答	2.4% (22 名)	1.4% (13 名)

喫煙習慣を確認する設問では、約 1 割となる 128 名が「ほぼ毎日吸っている」「時々吸っている」と回答。

(9)現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(複数回答) 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】	[今回]
1	ない	14.2% (132 名)	12.7% (117 名)	14.2%
2	高血圧	51.3% (477 名)	51.9% (480 名)	51.3%
3	脳卒中 (脳出血・脳梗塞)	4.1% (38 名)	4.8% (44 名)	4.1%
4	心臓病	15.8% (147 名)	17.2% (159 名)	15.8%
5	糖尿病	14.7% (137 名)	13.9% (128 名)	14.7%
6	高脂血症 (脂質異常)	16.1% (150 名)	16.0% (148 名)	16.1%
7	呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎)	5.3% (49 名)	5.2% (48 名)	5.3%
8	胃腸・肝臓・胆のうの病気	6.1% (57 名)	7.9% (73 名)	6.1%
9	腎臓・前立腺の病気	8.2% (76 名)	8.8% (81 名)	8.2%
10	筋骨格の病気 (骨粗鬆症・関節炎)	11.4% (106 名)	15.3% (141 名)	11.4%
11	外傷 (転倒・骨折)	2.6% (24 名)	3.7% (34 名)	2.6%
12	がん	5.3% (49 名)	4.5% (42 名)	5.3%
13	血液・免疫の病気	2.2% (20 名)	2.2% (20 名)	2.2%
14	うつ病	1.5% (14 名)	1.1% (10 名)	1.5%
15	認知症 (アルツハイマー病)	0.6% (6 名)	0.6% (6 名)	0.6%
16	パーキンソン病	0.5% (5 名)	0.5% (5 名)	0.5%
17	目の病気	13.7% (127 名)	14.8% (137 名)	13.7%
18	耳の病気	6.0% (56 名)	6.9% (64 名)	6.0%
19	その他	6.1% (57 名)	6.0% (55 名)	

○「19. その他」

- ・甲状腺の病気(12 名)
- ・リウマチ(6 名)
- ・皮膚疾患(5 名)
- ・精神(4 名)
- ・痛風(4 名)
- ・歯科(2 名)
- ・ポリオ(1 名)
- ・筋ジストロフィー(1 名)

治療中または後遺症のある病気では、「②高血圧」が最も多く、次いで「⑥高脂血症」「④心臓病」となっている。前回結果との比較では、「⑤糖尿病」が若干増加している。

(10) 年齢による身体の衰えを感じる場所はありますか(病気やケガを除く)

(複数回答) 【N=929】

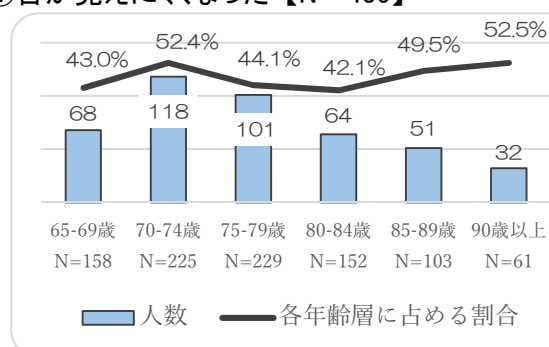
	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	目が見えにくくなった	46.8% (435 名)	—
2	耳が聞こえづらくなった	34.7% (322 名)	—
3	足腰が痛くなった	56.0% (520 名)	—
4	その他	5.1% (47 名)	—
5	ない	12.7% (118 名)	—

○ 「4. その他」

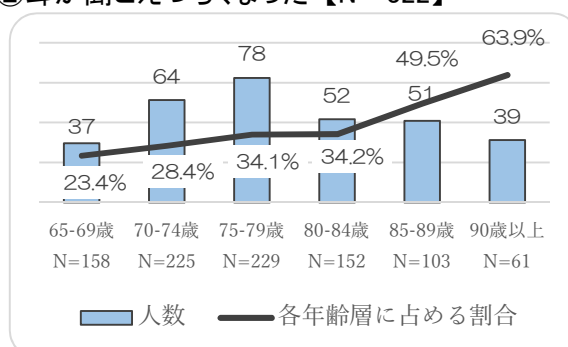
- ・体力の低下(14 名)
- ・腕や肩の痛み(4 名)
- ・筋力の低下(3 名)
- ・根気がなくなった(3 名)
- ・物覚えが悪い(2 名)
- ・手の痺れ

○ 年齢階級別割合

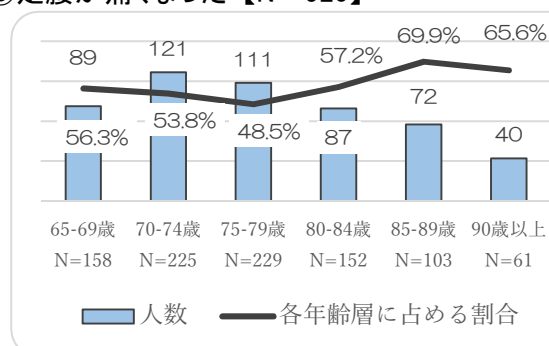
①目が見えにくくなった【N=435】



②耳が聞こえづらくなった【N=322】



③足腰が痛くなった【N=520】



年齢による身体の衰えについて、約 1 割(118 名)は「ない」としているが、56.0% (520 名)が「③足腰の痛み」、46.8%(435 名)が「①目の衰え」と回答している。「②耳の衰え」については、75 歳を過ぎた頃から徐々に実感する方が増え、90 歳を過ぎると 6 割以上が衰えを感じている。

(11) (10)で「1. 目が見えにくくなった」「2. 耳が聞こえづらくなった」「3. 足腰が痛くなった」「4. その他」と回答した方

それにより、日常生活で困ることはありますか 【N=788】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	よくある	19.3% (152 名)	—
2	たまにある	43.9% (346 名)	—
3	あまりない	26.0% (205 名)	—
4	ない	6.5% (51 名)	—
	無回答	4.3% (34 名)	—

年齢による身体の衰えを感じている方の中で、日常生活に支障をきたしているかについては、32.5% (256 名)が「あまりない」「ない」と回答する一方で、63.2% (498 名)の方は「よくある」「たまにある」と回答している。

(12) (11)で「1. よくある」「2. たまにある」と回答した方

困っていることを解消するために、何か使っているものはありますか

(複数回答) 【N=498】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	眼鏡や老眼鏡、ルーペ	59.2% (295 名)	—
2	補聴器	11.0% (55 名)	—
3	杖やシルバーカー	17.1% (85 名)	—
4	何も使っていない	27.5% (137 名)	—

(13) (12)で「4. 何も使っていない」と回答した方

使っていない理由は何ですか(複数回答) 【N=137】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	価格が高いから	5.8% (8 名)	—
2	どんなものがいいか分からないから	19.0% (26 名)	—
3	使うことに抵抗があるから	19.0% (26 名)	—
4	効果を感じなかった(効果はないと思う)から	9.5% (13 名)	—
5	その他	36.5% (50 名)	—

○ 「5. その他」

- ・ まだ使うほどではないから (35 名)
- ・ (持っている眼鏡や補聴器が) 使いづらいから (4 名)
- ・ 無理せず生活しているから (3 名)
- ・ 病院から出された薬を飲んでいてから・通院して注射を打ってもらっているから (2 名)
- ・ 補聴器を使っていたが、障害が出たから
- ・ 毎週整骨院に通っているから
- ・ 使うのが面倒くさいから
- ・ 痛みに慣れているから

年齢による身体の衰えにより不自由さを感じるがあっても、補助具等は「何も使っていない」と回答した方は、137 名となっている。

その理由については、26 名が「どのようなものでもいいか分からないから」「使うのに抵抗があるから」と回答しており、「価格が高いから」とする方は 8 名であった。

問9

認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 自分に認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか

【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	12.9% (120 名)	11.3% (104 名)
2	いいえ	84.8% (788 名)	85.1% (786 名)
	無回答	2.3% (21 名)	3.7% (34 名)

自身が認知症である、または身近に認知症の方がいるかとの問いについては、1割(120名)が「はい(ある)」と回答。

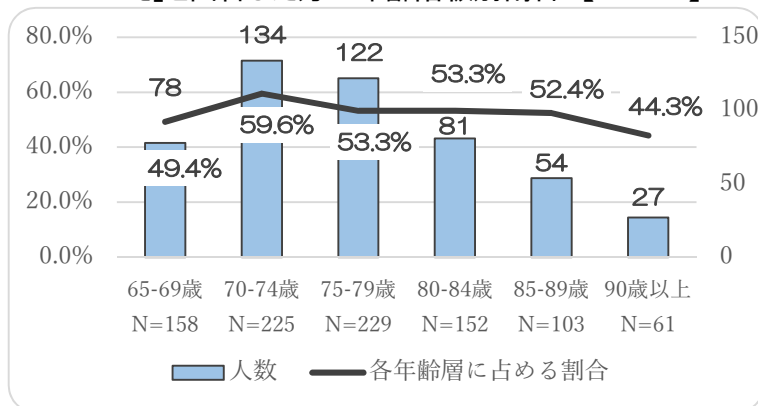
(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	はい	42.6% (396 名)	34.5% (319 名)
2	いいえ	53.4% (496 名)	61.7% (570 名)
	無回答	4.0% (37 名)	3.8% (35 名)

認知症に関する相談窓口について、42.6% (396名)は「はい(知っている)」と回答しており、前回調査と比べると、大幅に認知度が上がっている。

一方で、半数以上(496名)は、「いいえ(知らない)」と回答し、特に70代では56.4% (454名中256名)の方に認知されていない状況である。

○ 「2. いいえ」と回答した方の年齢階級別割合 【N=496】



問 9 (2)		認知症に関する相談窓口を知っていますか	
		1. はい	2. いいえ
問 4 (1)	もの忘れが多いと感じますか	156 名	225 名
		238 名	264 名

無回答 46 名

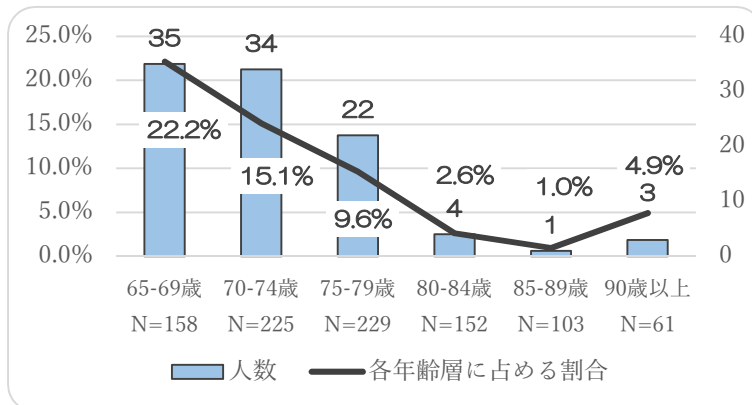
もの忘れは多いと感じているが、相談先は知っているとは回答する方は、全体の16.8% (156名)となっているが、一方で、もの忘れは多いと感じているにもかかわらず、相談先を知らないとする方は、24.2% (225名)となっている。

問10 医療のことについて

(1) かかりつけ医はいますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	新冠町立国民健康保険診療所の医師	41.0% (381 名)	44.6% (412 名)
2	新ひだか町の病院・診療所の医師	37.1% (345 名)	35.1% (324 名)
3	日高管内(新冠町・新ひだか町以外)の病院・診療所の医師	2.3% (21 名)	3.5% (32 名)
4	苫小牧市や札幌市などの病院・診療所の医師	6.1% (57 名)	4.9% (45 名)
5	かかりつけ医はいない	10.7% (99 名)	10.2% (94 名)
	無回答	2.8% (26 名)	1.8% (17 名)

○ 「5. かかりつけ医はいない」と回答した方の年齢階級別割合 【N=99】

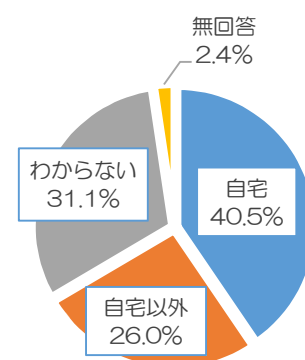


かかりつけ医は、約 4 割(381 名)の方は「新冠町立国民健康保険診療所」となり、前回調査と比べると減少している。

一方で、1 割(10.7%)は「いない」と回答しており、年齢階級が若いほどその傾向は高くなる。

(2) 人生の最期をむかえる場所として、どこを希望しますか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	自宅	40.5% (376 名)	41.7% (385 名)
2	病院	18.2% (169 名)	19.9% (184 名)
3	介護施設	6.9% (64 名)	6.5% (60 名)
4	その他	1.0% (9 名)	1.8% (17 名)
5	わからない	31.1% (289 名)	28.0% (259 名)
	無回答	2.4% (22 名)	2.1% (19 名)



○ 「4. その他」

- ・その時の状況を受入れる(2 名)
- ・競馬場
- ・札幌市

人生の最期をむかえる場所について、4 割(376 名)は「自宅」と回答し、前回の調査時と比べて人数・割合ともにほぼ同数値となっている。

また、3 割(289 名)は「わからない」と回答しており、前回調査から若干増加している。

問11

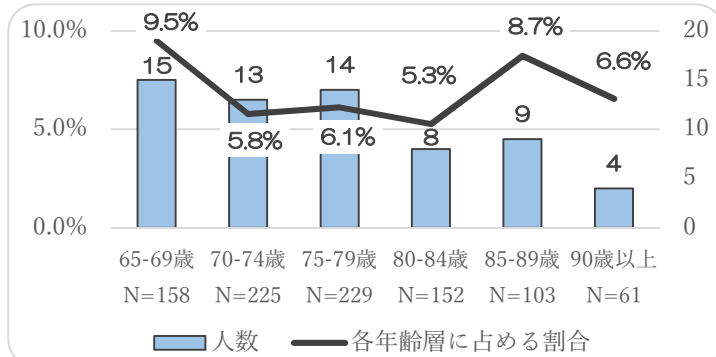
外出する手段について

(1) 次のうち、外出する際に利用する乗り物がありますか(複数回答) 【N=929】

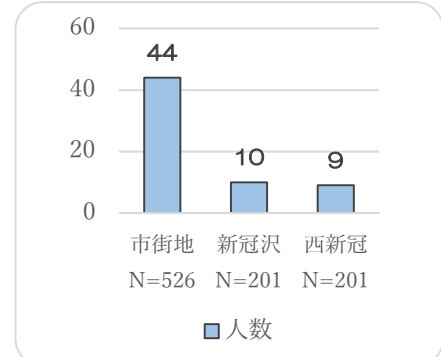
	選 択 肢	今 回	前 回【R5】	[今回]
1	自転車	6.8% (63 名)	7.5% (69 名)	6.8%
2	バイク	1.4% (13 名)	1.3% (12 名)	1.4%
3	自動車(自分で運転する)	65.1% (605 名)	60.8% (562 名)	65.1%
4	自動車(誰かに乗せてもらう)	30.6% (284 名)	33.8% (312 名)	30.6%
5	バス	18.3% (170 名)	23.2% (214 名)	18.3%
6	電動車いす(カート)	0.5% (5 名)	0.4% (4 名)	0.5%
7	タクシー	8.6% (80 名)	12.8% (118 名)	8.6%
8	その他	1.0% (9 名)	1.0% (9 名)	1.0%
9	あてはまるものはない	1.0% (9 名)	1.0% (9 名)	1.0%

○ 「1. 自転車」【N=63】

① 年齢階級別割合

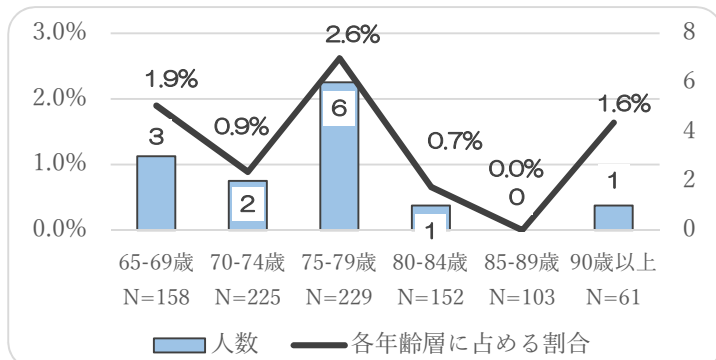


② 居住地域別

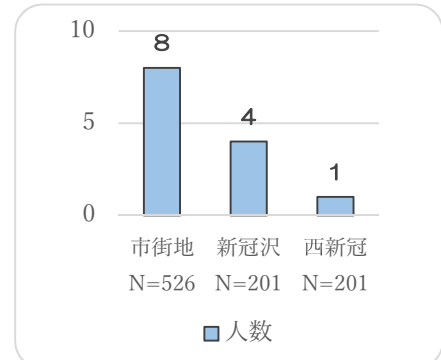


○ 「2. バイク」【N=13】

① 年齢階級別割合

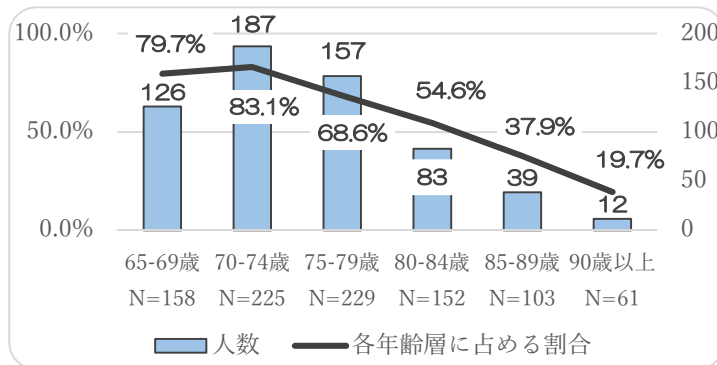


② 居住地域別

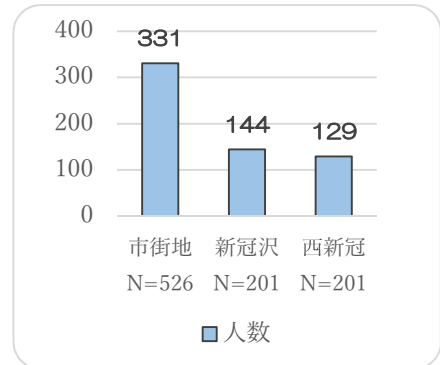


○ 「3. 自動車(自分で運転する)」【N=605】

① 年齢階級別割合

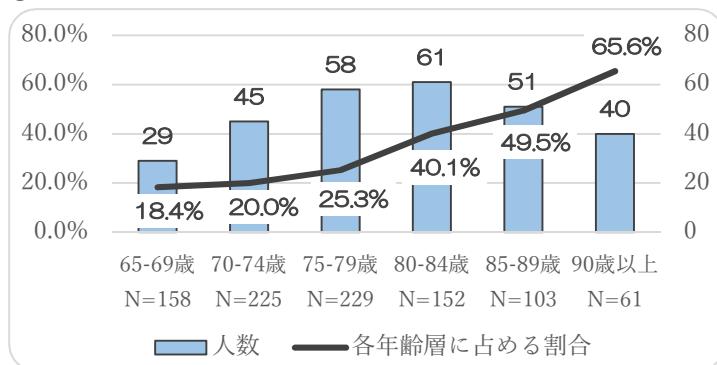


② 居住地域別

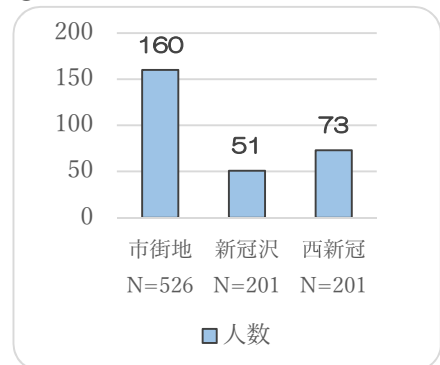


○ 「4. 自動車(誰かに乗せてもらう)」【N=284】

① 年齢階級別割合

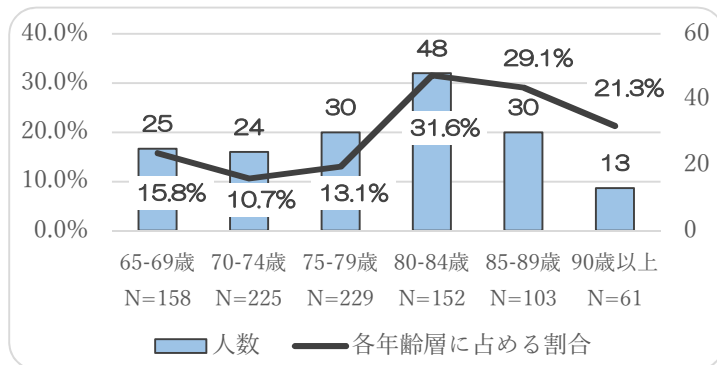


② 居住地域別

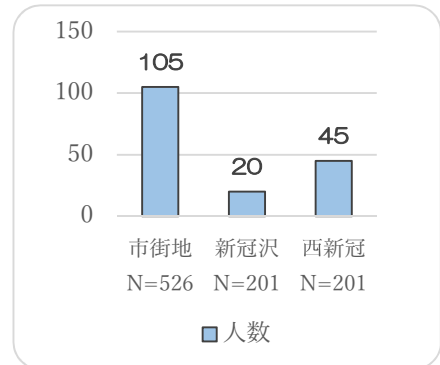


○ 「5. バス」【N=170】

① 年齢階級別割合

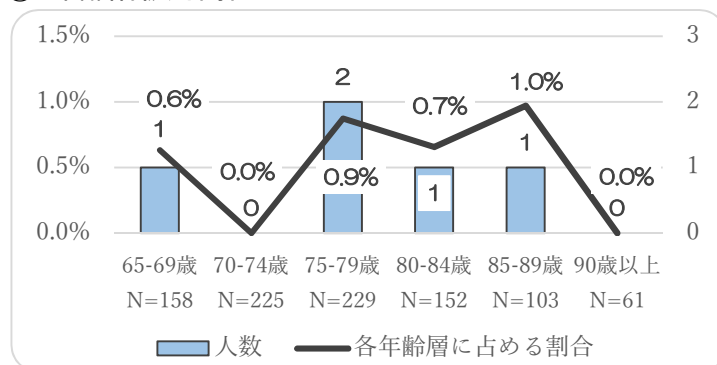


② 居住地域別

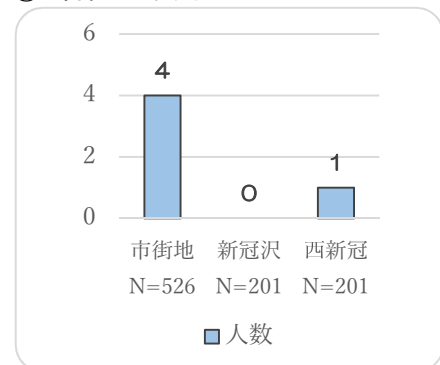


○ 「6. 電動車いす(カート)」【N=5】

① 年齢階級別割合

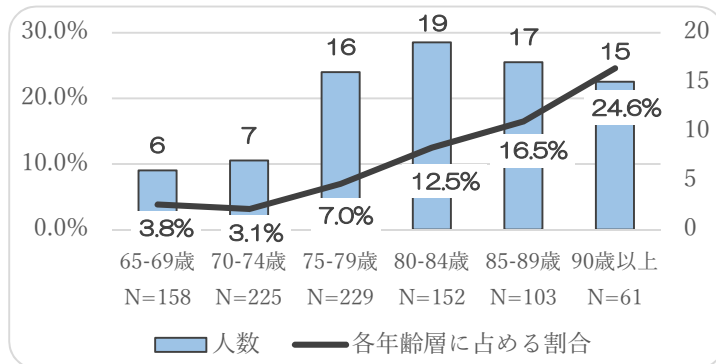


② 居住地域別

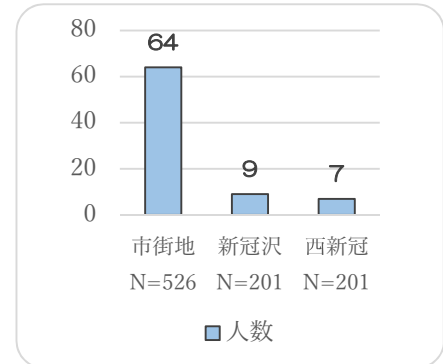


○ 「7. タクシー」【N=80】

① 年齢階級別割合



② 居住地域別



外出手段については、「③自動車(自分で運転する)」(605名)を選択した方が最も多く、次いで、「④自動車(誰かに乗せてもらう)」(284名)、「⑤バス」(170名)となっている。

「③自動車(自分で運転する)」を選択した方の年齢階級別割合を見ると、前期高齢者では約8割(383名中313名)が車を運転しているが、80代になると47.8%(255名中122名)まで減少し、90代以上では19.7%(61名中12名)へと、年齢が上がるにつれて割合が低くなっている。

これとは反対に、「④自動車(誰かに乗せてもらう)」においては、年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。

「⑤バス」の利用については、65歳から79歳までは約1割の利用に留まっているものの、80歳を過ぎると約3割まで跳ね上がり、90歳を過ぎると2割まで減少。80代の利用が中心となっている。

(2) (1)で「3. 自動車(自分で運転する)」と回答した方

運転免許を返納する時期はどうお考えですか(現在の考えに近いもの1つ)

【N=605】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	ある程度の年齢がきたら(免許更新に合わせて)	32.9% (199名)	34.9% (196名)
2	判断力がおとろえ、自信がなくなったら	47.3% (286名)	49.1% (276名)
3	体力がおとろえ、自信がなくなったら	7.9% (48名)	5.9% (33名)
4	家族など、誰かに指摘されたら	2.5% (15名)	1.8% (10名)
5	その他	0.2% (1名)	0.9% (5名)
6	考えていない	6.4% (39名)	6.6% (37名)
	無回答	2.8% (17名)	0.9% (5名)

自動車を運転している方の免許返納に対する考えについては、5割弱(286名)は「判断力がおとろえ、自信がなくなったら」を選択し、3割(199名)は「ある程度の年齢がきたら(免許更新に合わせて)」を選択している。

問12

これからのことについて

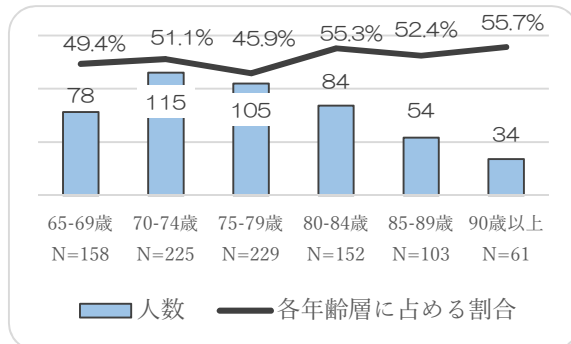
(1)これからの生活において、不安に感じていることはなんですか(複数回答)

【N=929】

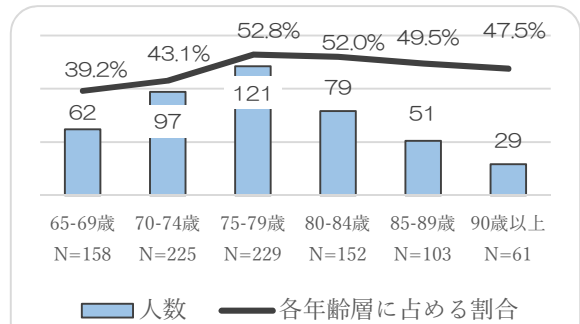
	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】	[今回]
1	健康に不安がある	50.7% (471 名)	54.2% (501 名)	50.7%
2	認知症にならないか	47.3% (439 名)	51.6% (477 名)	47.3%
3	頼れる人がいない	5.4% (50 名)	7.1% (66 名)	5.4%
4	生活費が足りない	15.4% (143 名)	17.1% (158 名)	15.4%
5	家事ができるかどうか	18.8% (175 名)	19.3% (178 名)	18.8%
6	今後も歩けるかどうか	29.7% (276 名)	32.9% (304 名)	29.7%
7	(災害時)避難できるかどうか	21.4% (199 名)	27.1% (250 名)	21.4%
8	財産の管理	5.2% (48 名)	3.2% (30 名)	5.2%
9	配偶者や子など、家族のこと	16.0% (149 名)	15.9% (147 名)	16.0%
10	その他	2.6% (24 名)	2.3% (21 名)	2.6%
11	不安に感じていることはない	11.4% (106 名)	9.4% (87 名)	11.4%

○ 年齢階級別割合

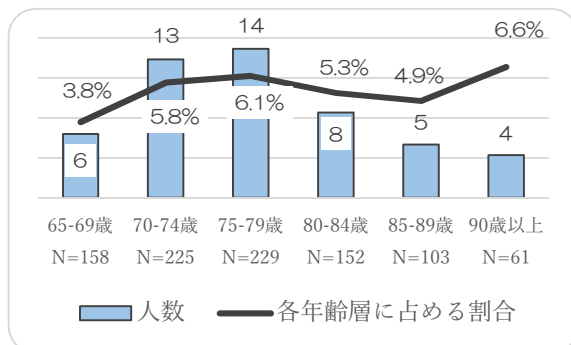
①健康に不安がある【N=471】



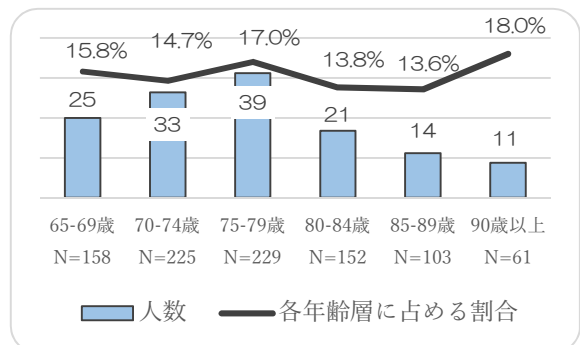
②認知症にならないか【N=439】



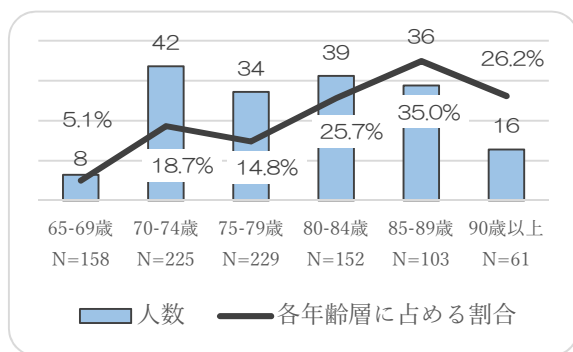
③頼れる人がいない【N=50】



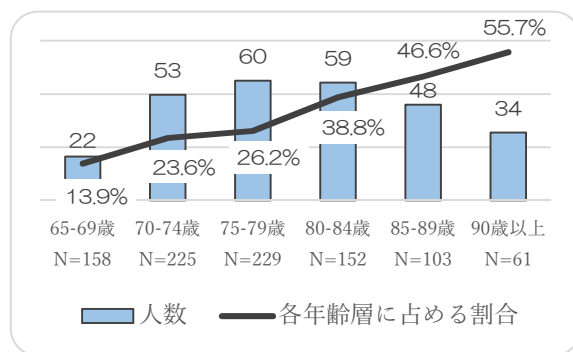
④生活費が足りない【N=143】



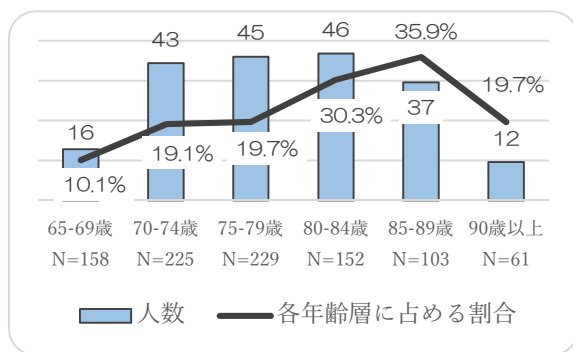
⑤家事ができるかどうか【N=175】



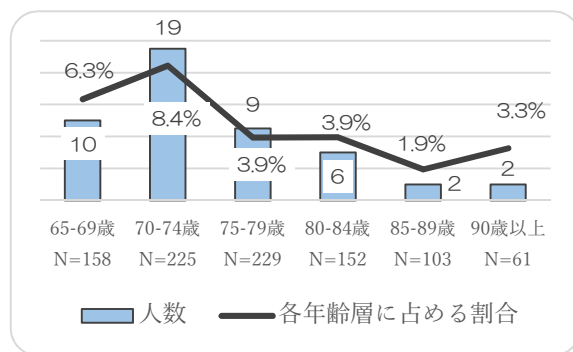
⑥今後も歩けるかどうか【N=276】



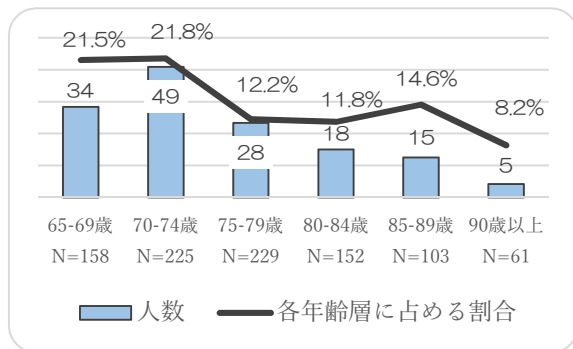
⑦(災害時)避難できるかどうか【N=199】



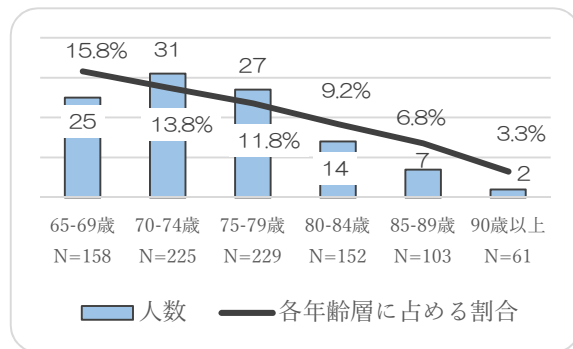
⑧財産の管理【N=48】



⑨配偶者や子など、家族のこと【N=149】



⑩不安に感じていることはない【N=106】



今後の生活不安について、約半数(471名)が「①健康」と回答し、次いで、「②認知症」(439名)、「⑥歩けるか」(276名)、「⑦(災害時)避難できるか」(199名)となっている。一方で、「⑩ない」と回答した方は、約1割(106名)となり、前回の調査結果より若干増加している。

「①健康」では、いずれの年代においても概ね半数以上が不安に感じており、その割合は年齢が高くなるにつれて増加する傾向にある。

「②認知症」では、75歳以上になると約5割の方が不安に感じている。

「⑥歩けるか」では、年齢が高くなるにつれて不安に感じる方の割合は増加し、特に80歳以上ではその傾向が顕著となっている。

「⑦(災害時)避難できるか」では、他の設問と同様に年齢上昇に伴い増加する傾向にあるものの、90歳以上になるとその割合が低下している。

(2) 何か困った時に協力してくれる(一番頼りにしている)家族や親戚は、どちらにお住まいですか 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回【R5】
1	同居している	41.1% (382 名)	41.1% (380 名)
2	新冠町内 (別居している)	17.1% (159 名)	21.9% (202 名)
3	日高管内	14.0% (130 名)	14.4% (133 名)
4	道内 (日高管内以外)	15.0% (139 名)	15.0% (139 名)
5	道外	2.6% (24 名)	2.9% (27 名)
6	国外	0.0% (0 名)	0.0% (0 名)
7	協力してくれそうな家族や親族はいない	3.0% (28 名)	1.8% (17 名)
	無回答	7.2% (67 名)	2.8% (26 名)

困ったときに協力してくれる家族や親戚について、回答者の 72.2% (671 名) は「同居している」「新冠町内 (別居している)」「日高管内」といった比較的近隣にいますが、一方で 17.5% (163 名) は「道内 (日高管内以外)」「道外」といった遠方にいる状況。また、回答者の 3.0% にあたる 28 名は「いない」としている。

(3) 何か困ったことがあった時に家族や親戚、友人以外で相談する方はいますか (複数回答) 【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回【R5】
1	自治会・老人クラブ	9.7% (90 名)	9.4% (87 名)
2	社会福祉協議会	10.3% (96 名)	9.8% (91 名)
3	民生委員	6.1% (57 名)	9.2% (85 名)
4	ケアマネジャー	10.0% (93 名)	11.9% (110 名)
5	地域包括支援センター・町	24.1% (224 名)	25.3% (234 名)
6	その他	3.0% (28 名)	4.8% (44 名)
7	そのような人はいない	45.6% (424 名)	43.3% (400 名)

○ 「6. その他」

- ・職場の人 (3 名)
- ・隣人 (2 名)
- ・訪問看護師
- ・支援員
- ・就活協議会の人

何か困ったことがあった時の相談先 (家族や親戚、友人以外) について、「地域包括支援センター・町」(224 名) を選択した方が最も多く、次いで「社会福祉協議会」(96 名)、「ケアマネジャー」(93 名) となっている。

一方で、「そのような人はいない」と回答した方は 45.6% (424 名) となっており、前回の調査結果と比べ、人数・割合ともに増加している。

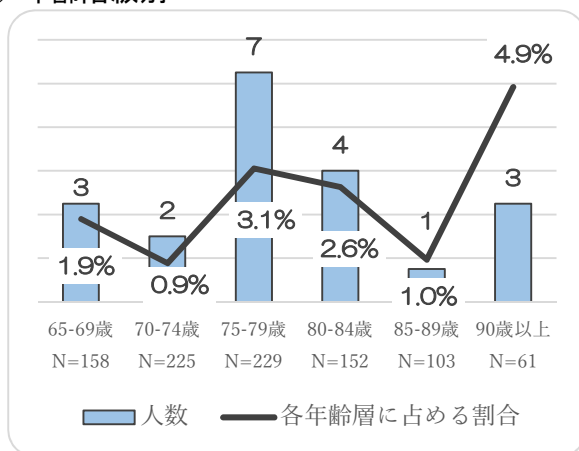
※ 以下2つの設問のうち、次のとおり選択した方

- (2) 何か困った時に協力してくれる(一番頼りにしている)家族や親戚は、どちらにお住まいですか ⇒ 「7. 協力してくれそうな家族や親戚はいない」
- (3) 何か困ったことがあった時に家族や親戚、友人以外で相談する方はいますか ⇒ 「7. そのような人はいない」

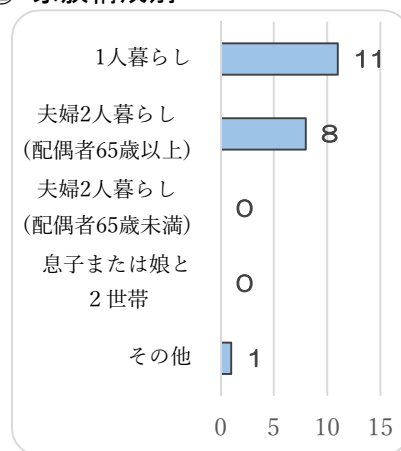
問 12 (2) / 問 12 (3)		何か困ったことがあった時に家族や親戚、友人以外で相談する方はいますか	
		1 から 6 のうちいずれか (複数回答)	7. そのような人はいない
何か困った時に協力してくれる (一番頼りにしている) 家族や親戚は、 どちらにお住まいですか	1 から 6 のうちいずれか	436 名	389 名
	7. 協力してくれそうな 家族や親戚はいない	8 名	20 名

○ (2)「7. 協力してくれそうな家族や親戚はいない」かつ (3)「そのような人はいない」と回答した方【N=20】

① 年齢階級別



② 家族構成別



何か困った時に協力してくれる家族や親戚はおらず、また、相談する人もいない状況にある方は20名おり、年齢階級別では大きな偏りは見られないものの、うち11名は「1人暮らし」、8名は「夫婦2人暮らし(夫または妻は65歳以上)」となっている。

(4) 将来、手助けしてほしいこと(手助けが必要となること)はありますか

(複数回答) 【N=929】

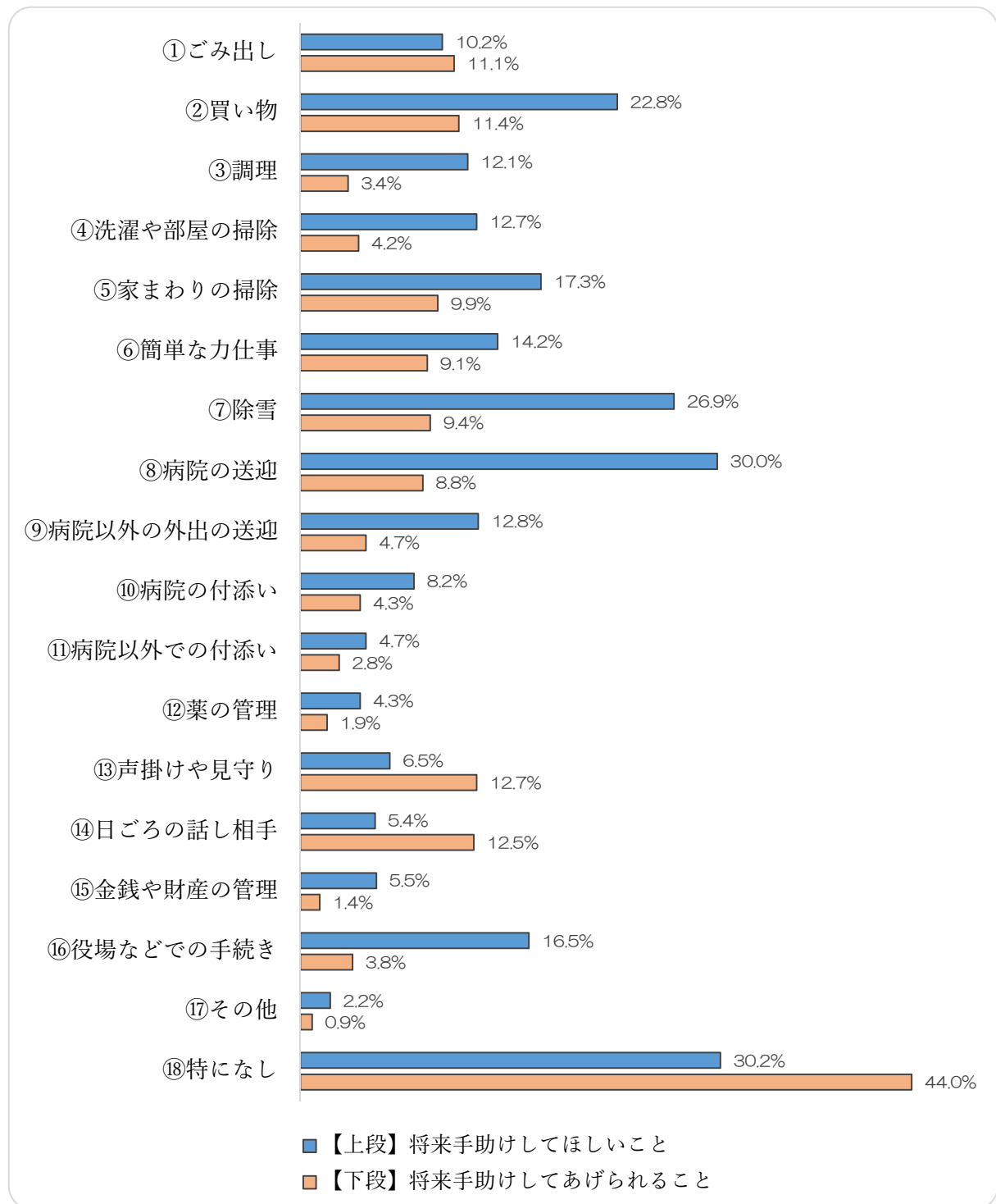
	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	ごみ出し	10.2% (95 名)	10.3% (95 名)
2	買い物	22.8% (212 名)	23.4% (216 名)
3	調理	12.1% (112 名)	11.4% (105 名)
4	洗濯や部屋の掃除	12.7% (118 名)	11.3% (104 名)
5	玄関前や庭などの家まわりの掃除	17.3% (161 名)	15.9% (147 名)
6	簡単な力仕事	14.2% (132 名)	13.6% (126 名)
7	除雪	26.9% (250 名)	31.4% (290 名)
8	病院の送迎	30.0% (279 名)	29.0% (268 名)
9	病院以外での外出の送迎	12.8% (119 名)	9.3% (86 名)
10	病院の付き添い	8.2% (76 名)	8.4% (78 名)
11	病院以外での付き添い	4.7% (44 名)	2.2% (20 名)
12	薬の管理	4.3% (40 名)	4.2% (39 名)
13	声かけや見守り	6.5% (60 名)	6.8% (63 名)
14	日ごろの話し相手	5.4% (50 名)	5.4% (50 名)
15	金銭や財産の管理	5.5% (51 名)	4.0% (37 名)
16	役場などでの手続き	16.5% (153 名)	18.4% (170 名)
17	その他	2.2% (20 名)	2.5% (23 名)
18	特になし	30.2% (281 名)	33.4% (309 名)

(5) 反対に、手助けしてあげられること(ボランティア)はありますか(複数回答)

【N=929】

	選 択 肢	今 回	前 回 【R5】
1	ごみ出し	11.1% (103 名)	9.2% (85 名)
2	買い物	11.4% (106 名)	9.7% (90 名)
3	調理	3.4% (32 名)	2.4% (22 名)
4	洗濯や部屋の掃除	4.2% (39 名)	3.6% (33 名)
5	玄関前や庭などの家まわりの掃除	9.9% (92 名)	6.8% (63 名)
6	簡単な力仕事	9.1% (85 名)	6.6% (61 名)
7	除雪	9.4% (87 名)	9.0% (83 名)
8	病院の送迎	8.8% (82 名)	8.1% (75 名)
9	病院以外での外出の送迎	4.7% (44 名)	4.1% (38 名)
10	病院の付き添い	4.3% (40 名)	2.9% (27 名)
11	病院以外での付き添い	2.8% (26 名)	1.3% (12 名)
12	薬の管理	1.9% (18 名)	1.7% (16 名)
13	声かけや見守り	12.7% (118 名)	15.0% (139 名)
14	日ごろの話し相手	12.5% (116 名)	14.6% (135 名)
15	金銭や財産の管理	1.4% (13 名)	0.4% (4 名)
16	役場などでの手続き	3.8% (35 名)	4.5% (42 名)
17	その他	0.9% (8 名)	1.0% (9 名)
11	特になし	44.0% (409 名)	48.1% (444 名)

○ 「(4)将来、手助けしてほしいこと」と「(5)手助けしてあげられること」の比較



将来、手助けしてほしいことについては、「⑧病院の送迎」(279名)が最も多く、次いで「⑦除雪」(250名)、「②買い物」(212名)となっている。

反対に、手助けしてあげられることについては「⑬声掛けや見守り」(118名)が最も多く、次いで「⑭日ごろの話し相手」(116名)、「②買い物」(106名)となっている。

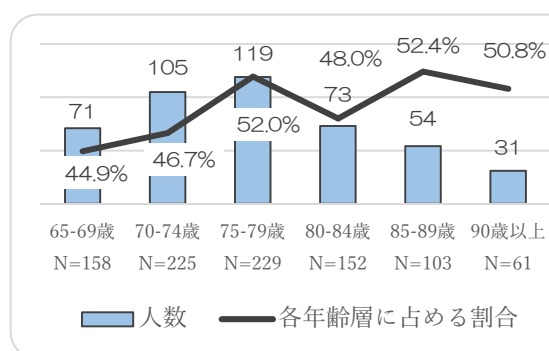
(6) 介護を必要としない健康な生活が送れるよう、心がけていることはありますか

(複数回答) 【N=929】

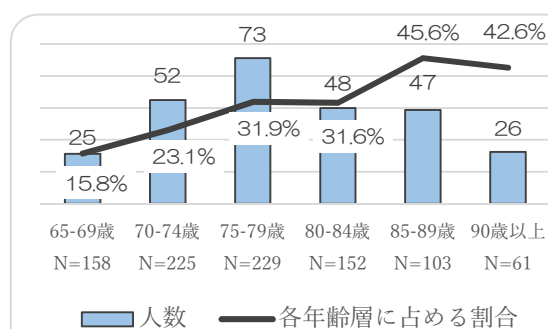
	選 択 肢	今 回	前 回【R5】	[今回]
1	栄養バランスのとれた食事をとっている	48.8% (453 名)	50.3% (465 名)	48.8%
2	意識してよく噛んで食べるようにしている	29.2% (271 名)	32.3% (298 名)	29.2%
3	散歩など、できる限り歩くようにしている	41.9% (389 名)	44.4% (410 名)	41.9%
4	体力をつけるための体操や運動をしている	28.5% (265 名)	28.2% (261 名)	28.5%
5	普段の通院とは別に、定期的に健康診断を受けている	23.4% (217 名)	22.8% (211 名)	23.4%
6	十分な睡眠をとっている	41.4% (385 名)	44.9% (415 名)	41.4%
7	趣味や地域活動のため、積極的に外出している	15.8% (147 名)	15.7% (145 名)	15.8%
8	新聞等を読んだり、脳を多く使うよう意識している	51.6% (479 名)	57.7% (533 名)	51.6%
9	「お喜楽☆おたっしや塾」や「脳の元気アップ教室」に参加している	7.4% (69 名)	5.4% (50 名)	7.4%
10	その他	4.5% (42 名)	5.0% (46 名)	4.5%
11	特に心掛けていないことはない	10.4% (97 名)	10.2% (94 名)	10.4%

○ 年齢階級別割合

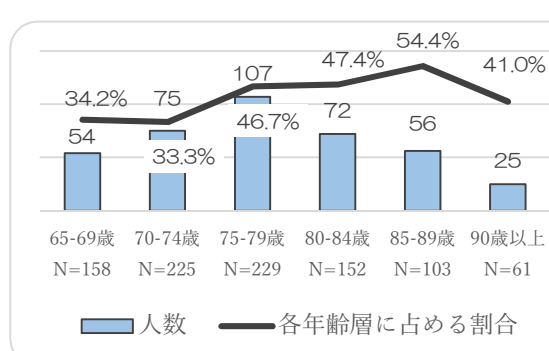
①栄養バランスのとれた食事をとっている【N=453】



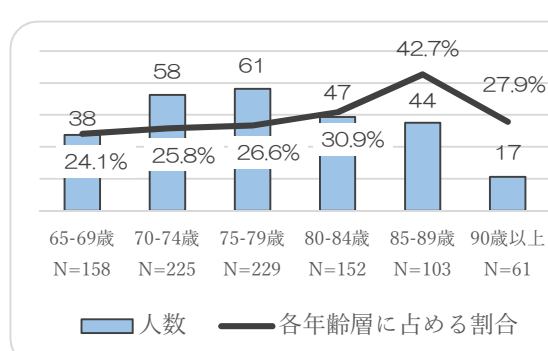
②意識してよく噛んで食べるようにしている【N=271】



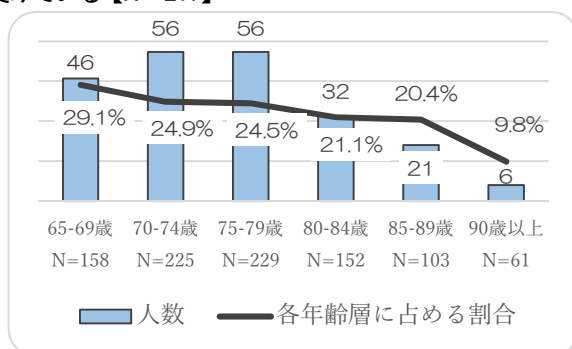
③散歩など、できる限り歩くようにしている【N=389】



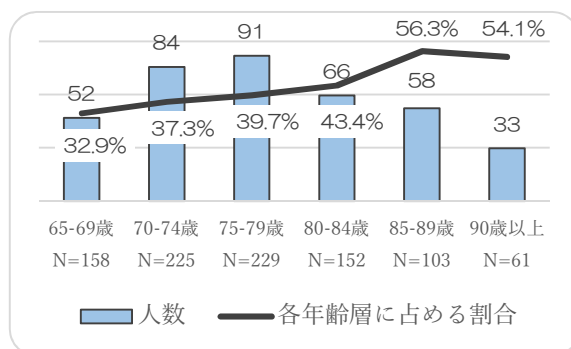
④体力をつけるための体操や運動をしている【N=265】



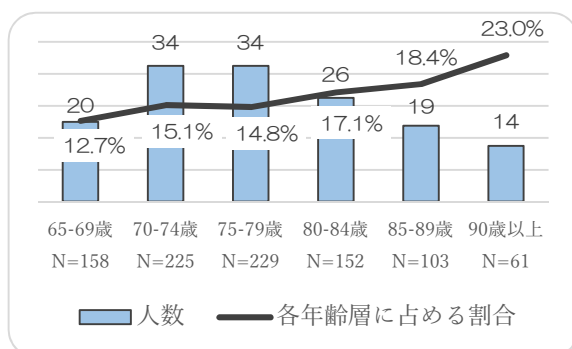
⑤ 普段の通院とは別に、定期的に健康診断を受けている【N=217】



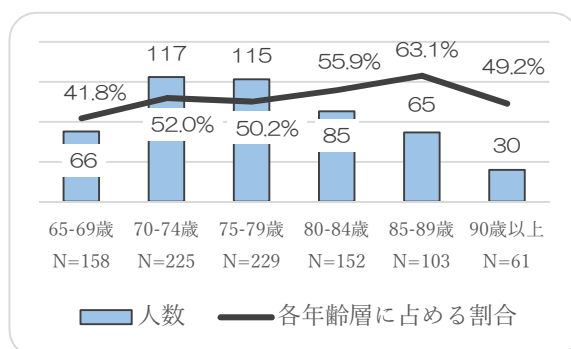
⑥ 十分な睡眠をとっている【N=385】



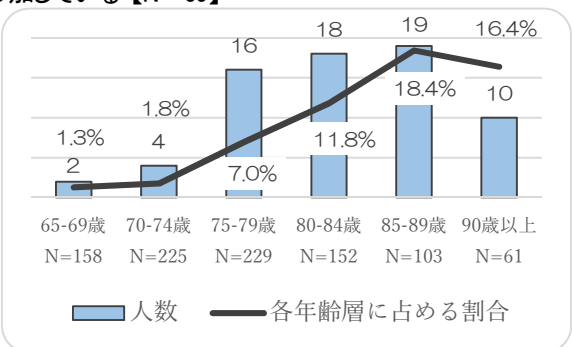
⑦ 趣味や地域活動のため、積極的に外出している【N=147】



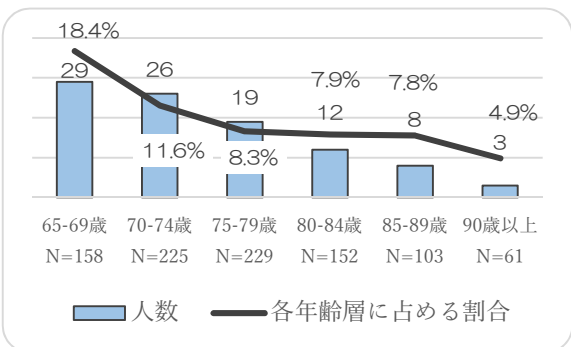
⑧ 新聞等を読んだり、脳を多く使うよう意識している【N=479】



⑨ 「お喜楽☆おたっしゃ塾」や「脳の元気アップ教室」に参加している【N=69】



⑩ 特に心掛けていることはない【N=97】



健康な生活が送れるよう、心がけていることについては、「⑧新聞等を読んだり、脳を多く使うよう意識している」(51.6%)が最も多く、「①栄養バランスのとれた食事をとっている」(48.8%)、「③散歩など、できる限り歩くようにしている」(41.9%)と続いている。

一方で、1割の方は「⑩特に心掛けていることはない」と回答しているが、年齢が高くなるにつれてその割合は低くなる傾向にある。

自由記述

※ 誤字脱字等につきましては、一部修正しております。

【移動手段・外出・買い物や通院について】

- ・ 高齢になると、買物に行くのも大変。コンビニだと高額で生活もままならない。静内に行きたいと思っても、車がないのでバスで行かなきゃなりません。大変不便です。
- ・ 現在は、車の運転に支障はないが、ケガや発熱などで夫が留守の時には、病院に行く手段がない。保健福祉課に相談した時には、タクシーを使ってと言われたが、往復でかなりの金額となる。また、雪の時は、除雪がないので、国道へ出るのも困難である。近所の人とも話しているが、免許返納の時期がきたら、もっと生活しやすい都会へ行くことも考えている。
- ・ 車の運転ができなくなった時に運転を請け負ってくれる、時間で雇えるような人がいたら助かる。
- ・ 札幌などの病院に行く場合、今のところは自分や配偶者が自動車を運転し行っているが、夫婦ともにそれが困難になった時、どうすればいいのか。バスの便数も少なくなっているので、新冠町で病院に通うための交通手段を考えていただけないでしょうか。
- ・ 新しい病院もできそうなので、歩いて行けるスーパーマーケットがあれば住みやすくなると思う。
- ・ いつもご親切に対応してくださる職員の皆さまに感謝申し上げます。これからもよろしくお願いします。見当違いかもしれませんが、バスの件。新千歳空港行きの直通便がなくなり、不便しています。新聞で目にしたのですが、予約制で乗り合いマイクロバス or タクシー等があると助かります。

【介護保険サービス・町の生活支援サービスについて】

- ・ 昨年夏頃からあいあい荘に入れていただきましたので、何も不自由はありません。毎日がとても楽しいです。私は年齢が90代なのですぐに身体が疲れます。週に2回デイサービスにも行っています。とても楽しいです。色々書きたいのですが、これで終わります。これからもよろしくお願いします。
- ・ 自分の頭脳が思わしくなくなったら、何気なくサポートしてくださる方がいると幸せだと思います。
- ・ 灯油の補助を非課税世帯等に出していますが、高齢者全世帯平等に補助・支援すべきである。(課税世帯も必要である。ましてや、町民税を支払っているのであるならば、なおさらではないか。)
- ・ 母がデイサービスを利用させてもらっており、助かっています。楽しみのようです。ケアマネジャー、地域包括支援センターの担当の方もまめに足を運んでもらい、家族としても心強い！ありがとうございます。
- ・ 寿入浴券を365日分いただけたらと思います。

- ・ いつもお世話になっております。らくらくにいかっぷの買い物サービスはとても助かります。継続していただけますよう、よろしくお願いします。
- ・ 日頃、保健師の方々には高齢者の介護予防のために「いきいき大学」や「百歳体操」などの場を設け、参加者に対しても、ご指導とご支援をいただいていることについて、心からのお礼申し上げます。今後とも町内高齢者の健康長寿を目指す支えになっていただきますよう、よろしくお願いします。

【施設について】

- ・ そのときがきたらすぐに介護施設に入れることを望みます。
- ・ 今のところは元気ですが、老人ホームに入れないという話があります。心配しています。
- ・ 現在、妻が恵寿荘に世話になっているが、私もいよいよになったら入所したいと思っている。
- ・ 安心して暮らせる老人ホームの等の充実

【町の介護予防事業や趣味活動について】

- ・ 介護や健康の予防に力を入れてください。(幼少期からの健康への意識づけ)
- ・ 要支援や要介護認定がなくても通うことができ、他の人と接する機会があればと思う。
- ・ 軽度認知障害(MCI)の相談窓口はどこになるのか知りたいです。現状では、要支援や要介護認定は取れないと言われていますが、認定がなくても通えるような所があったらいいなと思っています。
- ・ AIの時代ですが、福祉の方々には「高齢者のための自主自立」の事業や学習会を催してくださり、誠にありがとうございます。おかげで自分も「努力しなきゃ」と励まされます。

【災害時のこと】

- ・ (災害時)自家用車での避難経路の確保や駐車場・トイレの整備。住宅密集地の除雪基準を下げ、凍結前に除雪し、道路や歩道を確保。特に高台地域は、市街地よりも雪が多く、日陰となるところも多いため、凍結しやすい。高齢者のみならず、バス停までの通学にも支障がある時がある。日高道の静内延長や日高德洲会病院の移転に伴い、海側経路に限らず、災害を想定した山側経路を整備することで津波に備えることができる。さらに、日高道への緊急出入口を設けることで、苫小牧への経路も確保できるようになると思う。(病院によっては、静内からの集客も期待できるか)乗馬施設や病院駐車場の整備を行い、災害対策を考慮し、大型避難場所をつくと良いと思う。

【町の施策について】

- ・ ①医療費の補助、②マイナンバーを廃止して健康保険証の継続使用の取り組み(国や道への働きかけの強化)、③町内巡回バスの増便、④(共同・協同・組合的な)生活雑貨店の誘致や地元にお金が還元されるような購買施設(他町や大手の店、チェーン店にお金が集まるのでは、財政はよくなりませんと思います)
- ・ 「何でも公平に」ではなく、裕福な高齢者もたくさんいると思うので、本当に困った(例えば国民年金受給者)の方に心を向けてほしい。
- ・ 顔の見える小さな町の大きなやさしさを発揮してほしい。老々介護をしなくてよい町づくりを考えていただきたい。このようなアンケートをもとに、的確に課題を読み取り、町長部局に伝え、指針を明らかにして欲しい。特に、80代以降の老々介護の状況を介護支援係(予防係)の方は、把握し的確に対応し支援(施設入所等)していただきたい。新聞・テレビ等で報道されているような悲惨なことにならぬように。アンケートの結果を町はどのように読み解き、どのようにするのか、したいのか、広報等で知らせしてほしい。
- ・ 行政より、高齢社会の支援について書面での通知は少々あるものの、わが町に最後まで寄り添える政策があるのか疑心暗鬼。「緊急連絡先」の調査も行われているが、もしもの時に確実に届けることができるのか、これも不安。「誰からも知られていない私」に対し、町は何をしてくれるのか、教えてほしい。生前の打ち合わせはあるのか。特に夫婦二人三脚の現状から、一人暮らしへの生活変化は深刻。どのような支援があるのか。多々ある問題の中で、「後見人」が最大の問題。問題を行政に転嫁するわけではないが、実例があれば教えてほしい。
- ・ 今年、要介護の母を亡くしました。デイサービスを週2回、ショートステイも毎月利用していました。老人ホームに入っている人や足腰が立たなくなっている人は、整形外科に早く掛かるなど、寝たきりにならないようにすることは無理だったのでしょうか。脊柱管狭窄症、膝軟骨のすり減り、人工関節術を受けて、身体が動けるようになれば、要介護3〜5というような状態にならず、元気なオジジ、オババでいられます。年1回の健康診断で、脊椎・膝関節の検査も加えてほしいです。腰が痛くて歩けなくなってしまう前に腰の手術を、軟骨がすり減って動けなくなる前に膝の手術を受けて歩けるように。年1回の健康診断で、胃がんや肺がん、大腸がんの早期発見も大事ですが、運動機能を保ち、歩ける身体で安心安全な老後で、新冠町に住んでいてよかったと思える町にしたいです。一人でも多くの人に健康診断を受けていただいて、内臓や整形外科にかかわる病気の早期発見、手術を受けて、いきいきとしたオジジ・オババが増えるように保健福祉課の方をお願いします。

【町への要望】

- ・ 努力、努力、努力。ずっと努力をし続けてきました。すっかり老いてきました。いろいろ役場へ相談してきましたが、耳とお力はこちらには寄り添ってはくれませんね。口だけは、「何なりとお申しください」と言ってくさいますが、都合が悪いのか、その後パツパツ見向きもお力添えありません。私たち夫婦は、実際に町の仲間として、十数年努力してきました。助けてください。
- ・ 桜梅桃李。いろいろな人がおり、十人十色で好きなことを言うと思う。でも、役場の人はなるべく町民の話を聞いてあげてほしい。できるかできないかは別として、聞いてほしいものだと思う。

- ・ 西泊津に住んでいますが、柏の木の落葉がものすごい量で、自宅の入り口を塞いでいたこともあります。毎年毎年、困っています。どうにかならないのでしょうか。以前は穴を掘ってそこへ入れるようにしていましたが、今は近隣の方が処分してくださっており、申し訳なく思っています。町としては、落葉専用のビニール袋を無料で出すとか、考えてもらえないでしょうか。
- ・ 中央町の憩いの家ですが、ボイラー施設が今度故障したら、閉館すると聞き、すごく残念です。温泉にも行っていますが、近くという安心さや100円という安価等、よろこんで利用しています。利用者が少ないという声も耳にしますが、料金を200円にしたり、利用できる年齢を下げたりという考えはいかがでしょうか。お風呂の存続を強く希望します。
- ・ 『老人クラブ』は、もっと違う名前になったらいいと思います。例えば、『さわやかクラブ』『なごみクラブ』『そよ風クラブ』など。また、会話する場所がほしい。いつも気遣ってくれてありがとうございます。役場の人はとても丁寧でありがたいです。何とか元気ではつらつと暮らせるといいなと思います。あと、勉強する場を充実してほしい。(お金がかかるので、大変ですネ)住みよい新冠町を作りましょう。
- ・ 歩いて行ける距離である現在の国保診療所を無くさないでほしい。
- ・ リハビリの先生を新冠に戻してほしいです。病院の移転が遅れているそうですが、新冠にリハビリの先生がいないので困っています。足腰の悪い者にとっては、リハビリが大切なんです。よろしくお願いします。
- ・ 私も身体が不自由になり、まともに歩けない。冬の歩道の雪対策、何とかならないかと。歩行器を使い、コンビニに買い物に行くとき、信金や病院に行くときの大変さ、車に乗る人には分からないと思います。雪が降ったら、職員にも歩いて確認してほしいです。危険です。

【ニーズ調査について】

- ・ ニーズ調査について、夫婦で1通にしてはどうでしょうか。だんだん書くのも億劫になってきますし、紙ももったいないのでは。毎年実施しているように感じますが、大事な時だけでいいのではと思います。

【その他】

- ・ 今日現在、不満も不都合ありません。
- ・ いつもありがとうございます。今のところは何とか一人でやっていけそうです。その内、お世話になると思います。一日一日を大切に過ごせるよう努力します。
- ・ 今後何かありましたら、よろしくお願いします。
- ・ 日頃よりお世話になっております。今後ともよろしくお願いします。
- ・ 高齢者に対し、いろいろな気配りをさせていただいて大変感謝しております。ありがとうございます。

- ・ 恨まず、怒らず、憎まず、不平不満を言わないことを毎日心がけることにしています。身体が不自由でも、不幸とは違います。兄夫婦などが料理などを作って持ってきてくれます。買い物はトドックを利用しています。血が繋がってなくても、近所の方も面倒を見てくれています。困っていません。自分なりにエンジョイしていますし、面倒も見てくれています。何の不自由もありますが、世界の今が戦前と同じだと言われています。人はもちろん、口きけぬ生きものたちも平和でいられるよう願うばかりです。
- ・ 当町の手厚い保健福祉行政には、本当にありがたく、また、両親ともにお世話になり、心より感謝を申し上げます。私も後期高齢者となり、奥地の独居暮らしから公営住宅に入居させていただき、安心して暮らさせていただいております。地域での何らかのお手伝いにも参加させていただきたい気持ちはあるのですが、病気が見つかり、静かに向き合う生活をしておりますので、心苦しくも参加できず、すみません。お元気な方には、高齢者の生きがいや励ましの楽しい輪を広げていただき、ご参画いただけたらより魅力的な町になりますね。今後ともお世話になります。よろしくお願いします。愛する新冠町が、住みたい街ランキングに入ることを夢見ています。
- ・ 新冠町は他の市町村よりもずっと福祉施策に恵まれていて、とても安心できると思っています。残念なことに身体が不自由で協力することがあまりできず、申し訳ない気持ちです。これからも相変わらずよろしくお願いします。
- ・ 特にないです。十分です。
- ・ 保健福祉(高齢者)サービスは、十分対策ができています。特に体調に異常はなく、平穩に過ごしておりますが、いつお世話になるかわかりません。その時はよろしくお願いします。月1回配布される町政事務委託文書で、高齢者には理解できない文章(特に制度改正等)が多いので、分かりやすい情報提供をお願いします。
老人クラブですが、規約第2条(目的:会員相互の親睦を図り、老人クラブ連合会との連携を深め、楽しく明るく豊かな老後を築くことを目的とする)に基づき、事業を行っています。各種事業の開催案内は年4〜5回発行する会報等で周知していますが、いつも30名程度で、新たな会員の参加はありません。また、任期2年の役員も成り手がおらず、終身役員となっています。現職員のみなさん、町職員としての理念を念頭に置いて頑張ってください。いずれ退職しても、念頭(理念)を忘れず、地域住民に還元してください。
- ・ 「この町は老人を大切にしてくれているなあ」と最初に感じたのが8年前、神戸から移住してきた私の第一印象でした。以来、事あるごとに老人を喜ばせてくれました。ありがとう。これからも高齢者をよろしくお願いします。
- ・ 北海道に来て3年をむかえ、大自然と対峙する世界を改めて認識しております。都会生活では味わえない人間社会を大切に、ますますの人生の桃源郷を目指す行政の在り方に賛同をおしみません。皆さまの活躍を祈っております。
- ・ まだ見ていないので、分かりません。
- ・ 苦しく、生きていけるか不安。長生きができない世の中になって、私は先があまりないからいいが、これからの人が大変です。
- ・ いつもありがとうございます。
- ・ いつもお世話になっています。これからもよろしくお願いします。

- ・これからお世話になります。
- ・ 80代後半、一人暮らしです。今年から、介護サービスを受けています。それまでは家事全般を自分でこなしてきました。他人に迷惑をかけないことが美德と思っていましたが、年を負うごとに身体の動きが鈍くなります。子どもが勧めるので、介護サービスのヘルパーさんに来てもらっています。住宅の掃除をしてもらっていますが、笑顔で明るく接してくれます。短時間ですが、お話しもできて、いい人間関係が築けていると思います。他の場所も掃除をしてくれると言ってくれますが、自分でできることはなるべく自分でしたいと思います。他人に依存して甘えると自分が怠け者になるように思います。気持ちをしっかり持って、頑張っ生きていきたいです。
- ・ 自分に何かあったら主人が消防などに通報できるか心配です。
- ・ 積極的に外に出かける人(性格もあると思われますが)はあまり心配いらないと思いますが、年齢を重ね、外出が億劫になっている高齢者に対する接し方に難しさを感じています。
私が望む高齢期：①本人の希望を尊重してほしい、②若い人の思いで強制しないでほしい(例えば強制的な施設への入居)、③昔できたからできるだろうという思いこみ(自分に対しても)
夫や子どもたちに対する願いを書いてしまったように思います。失礼しました。
- ・ 60代から90代までの皆さん、ゲートボールでもしてみませんか。体力がつき、楽しいスポーツです。
- ・ いつもお世話になっております。今は元気でまだまだ大丈夫と思っていても、いつ何時、何が起こっても不思議ではないのが高齢期です。安心してご相談できることが何よりも心の支えです。どうぞよろしくお願いします。
- ・ 新冠に移住してきて、老人向けの行事がいろいろあるので楽しんでいます。

2. 調査結果の分析に基づく高齢者が抱える課題とその要因について

1. 外出機会の減少と閉じこもりの進行（本書P9～11・16・17・44・54～59）

調査結果から、高齢者の約 4 分の 1 (27.0%) に閉じこもり傾向が見られ、特に 85 歳以上の約 4 割、90 歳以上では約半数に達するという課題が浮き彫りになっています。

(1) 閉じこもりの現状

本調査では、外出頻度が「週 1 回」または「ほとんど外出しない」層を「閉じこもり傾向あり」として定義します。

- ・ 全体の傾向：
 - 「回答者の 27.0% (251 名) に閉じこもり傾向が見られます。前回調査 (29.2%) と比較するとわずかに減少していますが、依然として 4 人に 1 人以上が該当しています。
- ・ 年齢階級別の顕著な差：高齢になるほどその割合は急増しています。
 - 75 歳頃を境に外出機会が減る人の割合が増加
 - 85 歳から 89 歳：4 割弱 (37.9%) が閉じこもり傾向あり
 - 90 歳以上：半数 (49.2%) が閉じこもり傾向あり

(2) 外出が減少している主な要因

1 年前と比較して外出が「とても減っている」「減っている」と回答した 231 名の分析から、複数の要因が絡み合っていることが分かります。

- ・ 身体的要因 (最大の要因)：
 - 「足腰が痛い」を選択した方が 49.4% と半数近くを占め、前回 (41.8%) よりも増加しています。
 - 厚生労働省が定める基準において「運動器機能の低下」と認定される方は、80 歳頃を境にその割合が増え始め、85 歳から 89 歳までの 21.4%、90 歳以上になると 26.2% が該当しています。

特に、90 歳以上の約 2 割は「15 分くらい続けて歩けない」状況にあり、4 割以上が階段の上り下りに手すりを必要としています。
 - 80 歳以上の 6 割以上、90 歳以上の 7 割以上が外出時の転倒を不安視しています。
- ・ 心理的・精神的要因：
 - 「外での楽しみがない」を選択した方は 25.1% にのぼります。
 - 少数意見 (自由記述) では、「出るのが億劫」「気力・意欲の低下」「興味がなくなった」といった、精神的な活動性の低下も挙げられています。
- ・ 環境的・経済的要因：
 - 「交通手段がない」を選択した方は 17.7% おり、特に 80 歳以降では、自分で自動車を運転する方の割合が激減するため、代替手段の不足が外出を控える要因にもなっています。
 - 「経済的な理由」を選択した方は 18.6% おり、前回の 10.5% から大幅に増加しています。

(3) 外出機会の減少が及ぼす影響 (負の連鎖)

閉じこもり傾向は、他の健康リスクと強く関連しています。

- ・ **認知機能への影響：**
 - 閉じこもり傾向にある人の 47.0%が「もの忘れが多い」と実感しており、外出機会がある層 (41.2%) よりも高い割合を示しています。
- ・ **社会的孤立と低栄養：**
 - 「孤食(他者と一緒に食事をする機会がほとんどない)」の状態にある 201 名のうち、87 名が閉じこもり傾向にあります。外出しないことで社会との関わりが希薄化し、慢性的な孤立状態を招いていることに繋がります。高齢になるほどその割合は急増しています。
- ・ **生活ニーズの発生：**
 - 外出が困難になることで、「病院の送迎」(30.0%) や「買い物」(22.8%) といった日常生活の維持に他者の手助けを必要とするようになります。

(4) 自由記述から見える切実な声

- 「車の運転ができなくなったら病院に行く手段がない。タクシーは高額で負担が大きい」
- 「冬期間は、歩行器を使つての買い物や通院が非常に危険で困難」
- 「認定がなくても通えるような、他の人と接する機会がある場所が欲しい」

以上のように、閉じこもりは単なる「外出不足」ではなく、身体的な痛み、移動手段の喪失、経済的不安、社会的楽しみの欠如が重なり合って進行している複合的な課題であると言えます。

2. 心の健康(うつ傾向)と社会的孤立 (本書P16・24～27・30～32・34～37・48～49)

回答者の約 4 割(39.7%)にうつ傾向の兆候が見られ、前回調査(37.1%)より増加している点は深刻な課題です。また、他者と交流が少ない「孤食」や「交友関係の欠如」も目立ちます。

(1) うつ傾向の現状と具体的症状

今回の調査では、厚生労働省の指標に基づき 5 つの設問から精神状態を確認し、「うつ傾向あり」と判定された人は 39.7% (369 名) にのびります。これは前回調査の 37.1% から微増しており、依然として深刻な状況です。

- ・ **年齢によるリスクの増大：**
 - 年齢が上がるにつれて「うつ傾向」の割合は高くなり、60～70 代では約 35% ですが、80 代では 4 割強、90 歳以上では 6 割弱(約 60%)に達します。
- ・ **顕著な自覚症状：**
 - 「以前は楽にできていたことがおっくうに感じる」という人は 43.6% (405 名) に達しています。
 - 「わけもなく疲れたような感じがする」という人は 37.0% (344 名) で、前回調査から約 50 名増加しています。
 - 「気分が沈んだり、ゆううつになる」人は 31.8% (295 名)、「物事に興味がわからない、楽しめない」人は 20.6% (191 名) となっています。
 - 「自分が役に立つ人間だと思えない」と感じる人も 21.1% (196 名) 存在し、自尊心の低下も懸念されます。

(2) 社会的孤立の実態と「交流の欠如」

他者との関わりが希薄な状態が数値として現れています。

- ・ **友人と会う頻度と人数：**

- 友人と会う機会が「ほとんどない」と回答した人は 131 名おり、全体で見ると約 6 割が月に数回以下の交流に留まっています。
- 過去 1 か月間に会った友人が「0 人」という人が 11.8% (110 名) 存在します。
- ・ **「孤食」の慢性化：**
 - 誰かと一緒に食事をする機会が「年に何度か」または「ほとんどない」という孤食状態にある人は 21.6% (201 名) です。
 - このうち 87 名は「閉じこもり傾向」でもあり、外出機会の減少が食事の孤独さを深める要因となっています。
- ・ **相談相手の不在：**
 - 心配事や愚痴を「聞いてくれる人がいない」という人は 59 名、自身が病気で寝込んだ時に「看病してくれる人がいない」という人は 98 名にのぼります。

(3) 社会参加からの離脱

地域コミュニティとの繋がりも希薄化しています。

- ・ **活動不参加層の拡大：**
 - ボランティア、趣味、運動など、設問にある全ての社会活動(8 項目)に「参加していない」と回答した人は 29.4% (273 名) に達します。
- ・ **80 代のピーク：**
 - 活動に参加しない人の割合は 80 代でピークを迎え、80 歳以上の 34.5% が社会活動から足が遠のいています。

(4) 複合的なリスクを抱える層

「家族の支援」も「地域の相談先」も持たない、最も孤立のリスクが高い層が浮き彫りになっています。

- ・ **「助けも相談先もない」層：**
 - 困った時に協力してくれる家族・親戚がおらず、かつ友人以外の相談先(町や社協など)もないと回答した人が 20 名存在します。
 - この層の多くは「1 人暮らし」または「65 歳以上の夫婦のみ世帯」であり、一度体調や精神状態を崩すと、周囲が気づけないまま重症化する危険性をはらんでいます。

(5) 主観的幸福感と健康感

全体としては「主観的幸福感」の平均点は 7.20 点と前回(7.10 点)よりわずかに上昇しています。約 6 割が高い幸福感を感じていますが、一方で、低得点層(29 名)は、年齢に関わらず一定数存在しており、心の健康格差が生じているといえます。

このように、「おっくう感」や「疲労感」などのうつ兆候と、友人・社会活動からの断絶は相関しており、特に 80 代以上の層や、独居・高齢夫婦世帯における心のケアが大きな課題となっています。

3. 認知機能への不安と相談窓口の認知不足 (本書P17～18・41・46・54～59)

認知機能に対する高齢者の主観的な不安と、それをサポートするための相談窓口の認知状況について、下記のとおり、まとめます。

(1) もの忘れの実感と認知機能の低下

多くの高齢者が日常生活の中で「もの忘れ」を自覚しており、加齢や生活習慣との強い関連性が見られます。

- ・ **もの忘れの自覚：**
 - 回答者の 42.5% (395 名) が「もの忘れが多い」と感じています。この割合は年齢とともに上昇し、80 歳以上では半数以上、85 歳以上では 6 割以上に達します。
- ・ **認知機能の判定：**
 - 厚生労働省の基準に基づき、「もの忘れの自覚」「電話番号の調査と発信」「日付の把握」の 3 項目のうち 2 項目以上に該当する「認知機能の低下」の兆候がある人は 16.9% (157 名) です。85 歳を過ぎると、この割合は 3 割を超えます。
- ・ **外出頻度との相関：**
 - 外出機会が少ない「閉じこもり傾向」にある人は、そうでない人に比べて、もの忘れを実感する割合が高くなっています。
(もの忘れを実感している人のうち、閉じこもり傾向あり 47.0%、閉じこもり傾向なし 41.2%)

(2) 将来に対する強い不安

認知症は、高齢者にとって将来の生活における最大の懸念事項の一つとなっています。

- ・ **不安の順位：**
 - 今後の生活で不安に感じていることとして、「健康(50.7%)」に次いで「認知症にならないか」が 47.3% (439 名) と非常に高い割合を占めています。
- ・ **年齢別の不安：**
 - 特に 75 歳上の層では、約 5 割の人が認知症になることへの不安を抱えています。

(3) 相談窓口の認知不足と支援のギャップ

不安を感じている一方で、具体的な相談先を知らない層が一定数存在することが大きな課題です。

- ・ **窓口の認知度：**
 - 認知症に関する相談窓口を「知っている」人は 42.6% (396 名) で、前回調査(34.5%)より向上はしているものの、依然として半数以上の 53.4% (496 名) が「知らない」と回答しています。
- ・ **70 代以上の認知不足：**
 - 特に 70 代では、56.4%と半数以上が相談窓口を認識していない状況です。
- ・ **「不安があるが相談先を知らない」層：**
 - 最も支援が必要と思われる「もの忘れを実感しているが、相談先を知らない」人は 24.2% (225 名) 存在します。これは、実際にもの忘れを自覚している人の半数以上が、どこに頼ればよいか分からない状況にあることを示しています。

(4) 自由記述に見られるニーズ

町民の声からは、早期の相談や交流の場を求める希望が伺えます。

- ・ **早期相談の場：**
 - 「軽度認知障害(MCI)の相談窓口を知りたい」という声や、要介護認定を受けていなくても「自分の頭脳が思わしくなくなった時にサポートしてくれる人がほしい」といった意見があります。
- ・ **予防のための交流：**
 - 「認定がなくても通えるような、他の人と接する機会がある場所」を求める声があり、社会との繋がりが認知症予防に繋がると考えている町民が一定数存在します。

これらの結果から、「もの忘れの不安を抱えながら相談先に辿り着けていない層」に対し、いかに情報を届けるか、また介護認定前段階からの早期支援体制をどう構築するかが、今後の重要な課題といえます。

4. 日常生活の維持(買い物・通院・除雪など) (本書P19・43～45・50～51・54～59)

調査結果から、当町では日常生活を維持する上で、「病院の送迎(通院)」「除雪」「買い物」が3大課題として挙げられます。

(1) 病院の送迎(将来の不安第1位)

調査において、将来手助けが必要になると予想されることの第1位は「病院の送迎」(30.0%、279名)となっています。

- ・ **現状の依存度と限界：**
 - 現在、外出手段として「自分で自動車を運転する」人が65.1%にのびますが、80代では47.8%、90代以上では19.7%と急激に減少します。
- ・ **代替手段の不足：**
 - 自由記述では、「夫が留守の時に病院に行く手段がない」「タクシーは往復でかなりの金額になり負担が大きい」「バスの便数が少なく不便」といった声が寄せられています。
- ・ **健康管理への影響：**
 - 通院手段の確保は、持病の治療だけでなく、整形外科的なリハビリ(足腰の維持)を継続するためにも不可欠でもあります。

(2) 除雪(冬期間の孤立要因)

「除雪」は将来の手助けニーズとして第2位(26.9%、250名)に挙がっており、地域によっては特性上、深刻な問題となっています。

- ・ **外出の直接的な障壁：**
 - 「雪の時は除雪がないので国道に出るのも困難」「歩行器を使ってコンビニや病院に行く際、冬の雪道は非常に危険」といった意見もあり、冬期間の閉じこもりを助長する大きな要因となっています。
- ・ **老々介護の限界：**
 - 「80代以降の老々介護の状況を把握し、的確に支援してほしい」という声があるように、高齢者世帯では重労働である除雪を完結できず、居住継続への不安に直結しています。

(3) 買い物(生活の質と経済的負担)

「買い物」への支援を求める声は、将来ニーズとして第3位(22.8%、212名)となっています。

- ・ **アクセスの困難：**
 - 現在、食品や日用品の買い物を「自分でできる」人は84.9%ですが、1人暮らしで「できない」という人も存在します。
- ・ **利便性とコストのジレンマ：**
 - 「近くに歩いて行けるスーパーがない」「近場のコンビニは価格が高く、年金生活ではまかならない」という声もあり、移動手段の欠如が経済的な困窮に繋がる構造も見られます。
- ・ **支援サービスの活用：**
 - 一方で、「買い物サービス(らくらくにいかっぷ等)は非常に助かる」との評価もあり、既存の支援制度の継続と拡充が強く望まれています。

(4) 日常生活維持における「助け合い」のギャップ

将来のニーズと、高齢者が「手助けしてあげられること」を比較すると、深刻な需給のミスマッチが浮き彫りになっています。

- ・ 提供と需要の乖離及び物理的支援の不足：

- 「手助けしてあげられること」として、「声かけや見守り(118名)」や「話し相手(116名)」を選択する人が多い一方で、最も求められている「病院の送迎(希望279名に対し、可能82名)」や「除雪(希望250名に対し、可能87名)」といった支援に対しては、提供できる人が圧倒的に不足しています。
- 地域の互助だけでは解決できない物理的なギャップが浮き彫りになっています。

これらの要因が重なり、「車の運転ができなくなった時に生活しやすい都会へ行くことも考えている」という苦渋の選択を検討する層も現れており、地域の互助では対応できない重い負担への対応が最重要課題となっています。

5. 経済的不安と支援とのギャップ (本書P5・39～40・46～49)

調査結果から得られた高齢者の「経済的不安」の実態と、支援を必要としながらも十分に受けられていない「支援のギャップ」について、以下のとおり、まとめます。

(1) 経済状況の主観的認識と将来への不安

調査では、約4分の1の高齢者が現在の生活において経済的な厳しさを感じており、将来に対しても一定の不安を抱いていることが示されています。

- ・ 現在の主観的経済状況感：

- 現在の生活について、約4分の1(26.9%)の人が経済的に「大変苦しい」「やや苦しい」と感じています。これは前回調査(27.3%)とほぼ変わらない数値ですが、依然として一定層が困窮している状況にあります。

- ・ 将来の不安項目：

- 今後の生活における不安として、「生活費が足りない」を挙げた人は15.4%(143名)にのぼります。

- ・ 物価高騰への影響：

- 自由記述では、「コンビニだと高額で生活がままならない」といった声や、外出回数が減った理由として「物価やガソリン代が高くなったため」「経済的な理由(18.6%)」を挙げる人が増加しています。

(2) 支援のギャップ(介護・介助を必要としながら受けていない層)

身体的な衰えを感じながらも、介護サービスや支援を受けていない層が存在します。

- ・ サービス未利用層の実態：

- 「何らかの介護・介助は必要だが受けていない」と回答した人は7.8%(72名)います。

- ・ 孤立する世帯：

- 介護や介助が必要だが受けていない層のうち、25名は「1人暮らし」、26名は「65歳以上の夫婦のみ世帯」であり、サポートが得られにくい世帯で支援の漏れが生じている可能性があります。

- ・ 補助具の未利用：

- 身体の衰えで日常生活に支障がある人のうち、補聴器等の補助具(補聴器等)について「何も使っていない」人は27.5%います。その理由について、「どんなものがあるかわから

ない(19.0%)」や「使うことに抵抗がある(19.0%)」といった情報不足や心理的障壁によるものが多数を占めていますが、「価格が高い(5.8%)」という経済的なことを理由にしている人も一定数います。

(3) 地域とのかかわりの欠如によるギャップ

困ったときに外部へ助けを求める手立てがない、地域からの「孤立」状態が、支援のギャップをさらに深めています。

- ・ 外部相談先がない：

- 家族、親戚、友人以外で「相談する人はいない」と回答した人は 45.6% (424 名) と半数近くに達しており、前回(43.3%)から増加しています。

- ・ 二重の孤立：

- 「頼れる家族・親戚がいない」かつ「外部の相談先もない」という、地域から孤立している人が 20 名存在し、そのほとんどが 1 人暮らし(11 名)または高齢夫婦世帯(8 名)です。

このように、単に金銭的な困窮だけでなく、「適切なサービスを知らない」「頼れる窓口がない」などといった複数の要因が重なり、支援のギャップを生み出しているといえます。